

小矢部市のこれからの学校教育のあり方
及び小中学校の適正規模・適正配置等に
関する市民アンケート調査

結 果

【確定版】

令和元年 7 月 1 8 日

小矢部市小中学校統廃合審議会
小矢部市教育委員会

*** 目 次 ***

1	実施概要	・・・	1
2	調査結果		
	(1) 年齢	・・・	2
	(2) 性別		
	(3) 居住の小校区		
	(4) お子さんの有無		
	(5) 教育への関心について	・・・	4
	(6) 教育環境の変化について	・・・	6
	(7) 家庭・学校・地域の役割について	・・・	8
	(8) 子ども達にとって重要な学習環境について	・・・	10
	(9) 教職員に期待することについて	・・・	12
	(10) 学校と地域との関係について	・・・	14
	(11) 学校と地域との関わりについて	・・・	16
	(12) 地域の学校への協力について	・・・	18
	(13) 学級数や児童生徒数の影響について	・・・	20
	(14) 小学校の学校規模について	・・・	22
	(15) 中学校の学校規模について	・・・	26
	(16) 部活動の今後のあり方について	・・・	30
	(17) 通学時間・通学距離について	・・・	32
3	自由意見の概要		
	(1) 小中学校の教育のあり方及び適正規模・適正配置 について	・・・	36
	※ 小中一貫教育について	・・・	36
4	資料編		
	(1) 小中学校の教育のあり方及び適正規模・適正配置 に関する自由意見	・・・	39
	※ 小中一貫教育に関する自由意見	・・・	43

アンケート調査結果の概要

1 実施概要

市内小中学校においては、近年の児童生徒数の減少に伴い、クラス編制をはじめ中学校部活動など様々な面において課題が生じつつあり、施設面でも中学校の校舎等が大規模改修の時期を迎えています。また、学習面では、2020年度から本格実施となる新学習指導要領への対応をはじめ、少人数指導の充実など継続的な教育環境の拡充も求められている状況にあります。

さらに、市全体の人口減少が続く中、将来にわたり、市の安定的な行財政運営を確保するため、公共施設の総量削減が課題となっています。

このような状況の中、小矢部市小中学校統廃合審議会では、未来の小矢部市を担う子ども達の成長にとって最も重要な学びの場である学校教育のあり方と学校の適正規模・適正配置について、市民の皆様の意見を伺い、今後の方向性検討の参考とするため、18歳以上の市内在住3,000人の方に「小矢部市のこれからの学校教育のあり方及び小中学校の適正規模・適正配置等に関する市民アンケート調査（以下「アンケート調査」という）」を令和元年5月30日～6月10日にかけて実施（郵送配布・郵送回収）しました。

今後とも、小矢部市の子ども達が、より良い学校生活を送り、心身共に健やかに成長することをめざし、学校教育のあり方と学校の適正規模・適正配置について、より良い方向性を示せるよう努めてまいりたいと考えております。

（1）抽出方法

下記4つの条件に従い、無作為な抽出

- ①年 齢 別・・・18歳以上
- ②性 別・・・男女同数
- ③学校区別・・・小学校区ごとに人口比による
- ④同一世帯にならないこと

（2）配布数と回答数

配布数	有効回答数（有効回答率）	回収数
3,000 件	1,028 件（34.3%）	1,028 件（白紙0件）

*令和元年7月1日

2 調査結果

(1) 年齢

1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳以上	
10歳代	13人 (1.3%)	20歳代	86人 (8.4%)
40歳代	138人 (13.4%)	50歳代	176人 (17.1%)
70歳以上	308人 (30.0%)	無回答	4人 (0.4%)
30歳代	98人 (9.5%)	60歳代	205人 (19.9%)

※ 参考	送付数	回収率	送付数	回収率	送付数	回収率
10歳代	80件	16.3%	20歳代	400件	30歳代	400件
40歳代	400件	34.5%	50歳代	400件	60歳代	400件
70歳以上	920件	33.5%			計	3,000件
						34.3%

(2) 性別

1. 男性	2. 女性		
男性	425人 (41.3%)	女性	600人 (58.4%)
		無回答	3人 (0.3%)

(3) お住まいの小学校区

1. 石動小学校区	2. 東部小学校区	3. 大谷小学校区	
4. 蟹谷小学校区	5. 津沢小学校区		
石動小学校区	348人 (33.9%)	東部小学校区	110人 (10.7%)
大谷小学校区	241人 (23.4%)	蟹谷小学校区	153人 (14.9%)
津沢小学校区	170人 (16.5%)	無回答	6人 (0.6%)

※ 参考	送付数	回収率	送付数	回収率
石動小学校区	1,050件	33.1%	東部小学校区	300件
大谷小学校区	750件	32.1%	蟹谷小学校区	450件
津沢小学校区	450件	37.8%	計	3,000件
				34.3%

(4) お子さんの有無

ア お子さんの有無をお伺いします。

1. 有り	2. 無し		
有り	740人 (72.0%)	無し	283人 (27.5%)
		無回答	5人 (0.5%)

イ アで有りとお答えになった方に、お子さんの状況をお伺いします。(複数回答あり)

1. 未就学児	2. 小学生	3. 中学生	4. 高校生
5. 大学生・短大生・専修学校等	6. 社会人		
未就学児	93人 (10.2%)	小学生	92人 (10.1%)
高校生	63人 (6.9%)	中学生	67人 (7.4%)
無回答	5人 (0.6%)	大学生等	75人 (8.3%)
		社会人	513人 (56.5%)

[調査結果の概要]

○年齢別に見ると、小学生の保護者は30～40代、中学生の保護者は40代が中心。

図表1 回答者の子どもの有無と年齢

(上段：人)

		問1) 年齢							
問4) 回答者の子ども	合計	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体N値	1,191 100.0%	13 1.1%	86 7.2%	118 9.9%	217 18.2%	221 18.6%	211 17.7%	321 27.0%	4 0.3%
未就学児	93 100.0%	0 0.0%	12 12.9%	47 50.5%	24 25.8%	3 3.2%	1 1.1%	6 6.5%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	28 30.4%	40 43.5%	8 8.7%	5 5.4%	11 12.0%	0 0.0%
中学生	67 100.1%	0 0.0%	0 0.0%	6 9.0%	47 70.1%	5 7.5%	5 7.5%	4 6.0%	0 0.0%
高校生	63 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.6%	34 54.0%	20 31.7%	3 4.8%	5 7.9%	0 0.0%
大学生等	75 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	31 41.3%	38 50.7%	1 1.3%	5 6.7%	0 0.0%
社会人	513 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	17 3.3%	123 24.0%	161 31.4%	212 41.3%	0 0.0%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%
子どもなし	283 100.1%	13 4.6%	73 25.8%	36 12.7%	24 8.5%	24 8.5%	35 12.4%	77 27.2%	1 0.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

(5) 教育への関心について

- ・ 子ども達の育つ環境や本市の小中学校の教育に関心がありますか。（1つ回答）
 1. 大いに関心がある
 2. まあまあ関心がある
 3. あまり関心がない
 4. 全く関心がない

[調査結果の概要]

○子育て環境や教育への関心は、ほとんどの人が「関心がある」計85.6%となっている。（大いに関心がある33.2% + まあまあ関心がある52.4%の計）

○子どもの有無別では、子どもなしの回答者が「関心がある」計75.2%で、子どもありの回答者の「関心がある」計88.8%と比べて約14%ほど関心が低い。（図表2）

○年代別では、10歳代以外の年代はいずれも関心が高い。（図表3）

図表2

（上段：人）

		問5) 回答者の子どもと教育への関心				
問4) 回答者の子ども	合計	大いに 関心がある	まあまあ 関心がある	あまり 関心がない	全く 関心がない	無回答
全体N値	1,191 100.1%	395 33.2%	624 52.4%	140 11.8%	27 2.3%	5 0.4%
未就学児	93 100.0%	51 54.8%	42 45.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	46 50.0%	44 47.8%	2 2.2%	0 0.0%	0 0.0%
中学生	67 100.0%	26 38.8%	39 58.2%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	25 39.7%	34 54.0%	3 4.8%	1 1.6%	0 0.0%
大学生等	75 100.0%	22 29.3%	46 61.3%	5 6.7%	2 2.7%	0 0.0%
社会人	513 100.0%	155 30.2%	276 53.8%	69 13.5%	12 2.3%	1 0.2%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	4 80.0%
子どもなし	283 99.9%	70 24.7%	143 50.5%	58 20.5%	12 4.2%	0 0.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

図表 3

(上段：人)

		問 5) 回答者の年齢と教育への関心				
問 1) 年齢	合計	大いに 関心がある	まあまあ 関心がある	あまり 関心がない	全く 関心がない	無回答
全体	1,028 99.9%	328 31.9%	535 52.0%	135 13.1%	25 2.4%	5 0.5%
10歳代	13 100.1%	2 15.4%	4 30.8%	3 23.1%	4 30.8%	0 0.0%
20歳代	86 99.9%	23 26.7%	42 48.8%	19 22.1%	2 2.3%	0 0.0%
30歳代	98 99.9%	44 44.9%	46 46.9%	7 7.1%	1 1.0%	0 0.0%
40歳代	138 100.0%	51 37.0%	73 52.9%	12 8.7%	2 1.4%	0 0.0%
50歳代	176 100.0%	44 25.0%	103 58.5%	27 15.3%	1 0.6%	1 0.6%
60歳代	205 100.1%	61 29.8%	109 53.2%	31 15.1%	4 2.0%	0 0.0%
70歳以上	308 100.0%	103 33.4%	157 51.0%	36 11.7%	11 3.6%	1 0.3%
無回答	4 100.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

(6) 教育環境の変化について

- ・あなたの子どもの頃、若しくは以前と比べて、子どもを取り巻く環境はどうなっていると感じていますか。(各項目、1つ回答)

- | | |
|--------------|---------------|
| ア 家庭、保護者のしつけ | イ 地域の子どもへの関わり |
| ウ 子ども同士の関わり | エ 子どもの知識・学力 |
| オ 子どもの安全 | カ 学校の施設・設備 |
| キ 教職員の意欲・力量 | |
- (選択肢) 1. とても良くなった 2. 良くなった 3. 変わらない
4. 悪くなった 5. とても悪くなった

[調査結果の概要]

- 「ア 家庭、保護者のしつけ」は、以前に比べて「悪くなった」が最も高く、次いで「変わらない」となっている。
- 「イ 地域の子どもへの関わり」と「ウ 子ども同士の関わり」は、以前に比べて「変わらない」が最も高く、次いで「悪くなった」となっている。
- 「エ 子どもの知識・学力」は、以前に比べて「良くなった」が最も高く、次いで「変わらない」となっている。
- 「オ 子どもの安全」は、以前に比べて「良くなった」と「悪くなった」が、同じ率であり、意見が分かれている。
- 「カ 学校の施設・整備」は、以前に比べて「良くなった」が最も高く、次いで「とても良くなった」となっている。
- 「キ 教職員の意欲・力量」は、以前に比べて「変わらない」が最も高く、次いで「良くなった」となっている。

図表 4

問6) 教育環境の変化について	とても良くなった	良くなった	変わらない	悪くなった	とても悪くなった	無回答
ア 家庭、保護者のしつけ	3.5%	19.2%	34.1%	37.9%	3.7%	1.6%
イ 地域の子どもへの関わり	2.1%	22.2%	37.3%	34.0%	2.6%	1.8%
ウ 子ども同士の関わり	1.5%	11.7%	47.0%	33.7%	2.9%	3.3%
エ 子どもの知識・学力	3.8%	41.1%	39.8%	11.1%	0.8%	3.4%
オ 子どもの安全	4.1%	32.7%	24.0%	32.7%	5.4%	1.2%
カ 学校の施設・設備	21.3%	60.0%	15.1%	1.2%	0.5%	1.9%
キ 教職員の意欲・力量	3.5%	27.1%	49.0%	14.2%	1.3%	4.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

(7) 家庭・学校・地域の役割について

- 子ども達が健やかに育つには、主にどこでの役割が重要だと思いますか。項目ごとに、最も重要だと思うものと、次に重要だと思うものを選んでください。(各項目、1つ回答)

ア 規則正しい基本的な生活習慣	イ 善悪を判断し、社会のルールを守る能力
ウ 他者(人や命)を思いやる気持ち	エ 人と協力し、仲良く付き合う態度や能力
オ 基礎的な学力や知識	カ 自ら学ぼうとする意欲
キ 郷土を愛する気持ち・態度	ク スポーツや芸術文化に関する知識や体験
ケ 正しい食生活の習慣	コ 自分自身の健康管理
サ 子どもの不安や悩みの解消 (選択肢) 1. 家庭・保護者	シ 不登校やいじめの未然防止 2. 学校 3. 地域

[調査結果の概要]

項目	結果概要
ア 規則正しい基本的な生活習慣	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約80%~90%と最も高い。次いで「学校」が約5%~17%となっている。
イ 善悪を判断し、社会のルールを守る能力	
ウ 他者(人や命)を思いやる気持ち	
エ 人と協力し、仲良く付き合う態度や能力	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約48%であるが、次いで「家庭・保護者」も約46%あり、ほぼ同じ率となっている。次に重要な役割を担うべきは「地域」が約38%となっていることから、「地域」に役割を求める意見もあることが伺える。
オ 基礎的な学力や知識	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約81%と最も高い。次いで「家庭・保護者」が約18%となっている。
カ 自ら学ぼうとする意欲	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約51%であるが、次いで「学校」も約46%あり、ほぼ同じ率となっている。
キ 郷土を愛する気持ち・態度	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約45%と最も高い。次いで「地域」が約35%となっている。
ク スポーツや芸術文化に関する知識や体験	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約60%であり、次いで「家庭・保護者」が約27%となっている。また、次に重要な役割を担うべきは「地域」が約41%となっていることから、「地域」への期待もあることが伺える。
ケ 正しい食生活の習慣	最も重要な役割を担うのは「家庭・保護者」とする意見が約80%~90%と最も高い。次いで「学校」が約3%~16%となっている。
コ 自分自身の健康管理	
サ 子どもの不安や悩みの解消	
シ 不登校やいじめの未然防止	最も重要な役割を担うのは「学校」とする意見が約56%と最も高い。次いで「家庭・保護者」が約41%となっている。

図表 5

問 7) 家庭・学校・地域の役割 について	最も重要な役割			次に重要な役割		
	家庭・ 保護者	学校	地域	家庭・ 保護者	学校	地域
ア 規則正しい基本的な生活習慣	91.7%	5.5%	1.6%	5.6%	77.3%	13.2%
イ 善悪を判断し、社会のルールを守る能力	79.1%	16.6%	3.1%	14.2%	61.4%	20.7%
ウ 他者(人や命)を思いやる気持ち	80.8%	15.8%	2.4%	13.5%	65.2%	17.7%
エ 人と協力し、仲良く付き合う態度 や能力	46.1%	48.2%	4.7%	22.6%	35.6%	38.3%
オ 基礎的な学力や知識	17.5%	81.4%	0.2%	75.3%	16.3%	5.1%
カ 自ら学ぼうとする意欲	50.9%	46.3%	1.7%	40.8%	48.1%	7.4%
キ 郷土を愛する気持ち・態度	45.1%	18.8%	34.7%	25.1%	28.0%	43.4%
ク スポーツや芸術文化に関する知識 や体験	26.6%	59.6%	12.7%	28.6%	26.9%	41.1%
ケ 正しい食生活の習慣	92.6%	6.4%	0.2%	6.3%	86.8%	3.0%
コ 自分自身の健康管理	96.0%	2.6%	0.3%	3.1%	87.3%	5.4%
サ 子どもの不安や悩みの解消	81.0%	16.0%	2.0%	13.6%	75.8%	7.7%
シ 不登校やいじめの未然防止	40.7%	55.7%	2.4%	44.5%	37.9%	14.5%

*網掛け表示は各項目の最大値

(8) 子ども達にとって重要な学習環境について

- ・本市で育つ子ども達にとって、小中学校でどのような学習環境が重要だと思いますか。（各項目、1つ回答）
- ア 人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと
- イ 互いに切磋琢磨することで、向上意欲が喚起される環境にあること
- ウ 習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること
- エ 児童会・生徒会活動等で、子ども達1人1人が役割をもち、主体的に活動すること
- オ 体育大会、学校祭、合唱コンクール等の集団活動が多くの人数的もと活発に行われること
- カ 情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること
- キ 教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと
- ク 積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること
- ケ 生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること
- (選択肢) 1. とても重要 2. どちらかという重要
3. あまり重要とは言えない 4. 重要ではない

[調査結果の概要]

- すべての項目で「とても重要」と「どちらかという重要」を合わせた回答が8～9割と高い割合を示している。
- 「とても重要」が最も高いのは、
「ア 人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと」
「キ 教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと」
となっている。
- 一方、
「ウ 習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること」
を「とても重要」とする意見は約37%となっている。
- 「イ」「エ」「オ」「カ」「ク」「ケ」を「とても重要」とする意見は、ほぼ同じ率であるが、「どちらかという重要」という意見との合計では、
「ウ 習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること」
「ケ 生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること」
が他と比べて低くなっている。
- また、回答者全体と小学生・中学生保護者とを比較すると、
「カ 情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること」
「ク 積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること」
について、回答者全体では「とても重要」の割合が高かったが、小学生・中学生の保護者では「どちらかという重要」の割合が高くなっており、相違が見られる。

図表 6

問 8) 子ども達にとって重要な学習環境について	とても重要	いどちらかと重要	あまり重要とは言えない	重要ではない	無回答
ア 人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと	52.2%	39.2%	7.3%	0.9%	0.4%
イ 互いに切磋琢磨することで、向上意欲が喚起される環境にあること	48.2%	43.8%	7.1%	0.3%	0.6%
ウ 習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること	37.1%	46.7%	13.9%	1.7%	0.7%
エ 児童会・生徒会活動等で、子ども達1人1人が役割をもち、主体的に活動すること	45.4%	46.3%	7.2%	0.5%	0.6%
オ 体育大会、学校祭、合唱コンクール等の集団活動が多くの人数的もと活発に行われること	46.0%	42.4%	9.8%	1.3%	0.5%
カ 情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること	46.7%	45.7%	6.2%	0.9%	0.5%
キ 教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと	52.6%	36.0%	9.9%	0.8%	0.7%
ク 積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること	46.6%	41.7%	10.2%	0.7%	0.8%
ケ 生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること	43.4%	41.8%	12.4%	1.7%	0.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

図表 7 小学生・中学生の保護者に限定

問 8) 子ども達にとって重要な学習環境について	とても重要	いどちらかと重要	あまり重要とは言えない	重要ではない	無回答
ア 人間関係が固定化せず、様々な個性を持った多くの友達とふれあうこと	46.5%	46.5%	6.3%	0.6%	0.0%
イ 互いに切磋琢磨することで、向上意欲が喚起される環境にあること	52.2%	40.3%	6.9%	0.0%	0.6%
ウ 習熟度に応じた少人数指導や複数の教員によるきめ細かな授業を実施すること	38.4%	45.9%	13.8%	1.3%	0.6%
エ 児童会・生徒会活動等で、子ども達1人1人が役割をもち、主体的に活動すること	39.0%	54.1%	6.9%	0.0%	0.0%
オ 体育大会、学校祭、合唱コンクール等の集団活動が多くの人数的もと活発に行われること	49.1%	43.4%	5.7%	1.9%	0.0%
カ 情報教育や国際理解教育など、これからの時代に必要な学習が行われること	45.9%	48.4%	4.4%	1.3%	0.0%
キ 教職員がお互いに切磋琢磨し、意欲的に教育活動を実践していくこと	54.1%	35.8%	9.4%	0.6%	0.0%
ク 積極的な情報公開や保護者・学校・地域との連携を進め、地域と一体となった教育活動が行われること	39.6%	52.2%	6.9%	0.6%	0.6%
ケ 生徒指導や部活動に十分な教職員を確保・配置すること	50.3%	36.5%	11.3%	1.3%	0.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

(9) 教職員に期待することについて

- ・本市の小中学校の教職員にどのようなことを期待しますか。(主なもの3つまで回答)

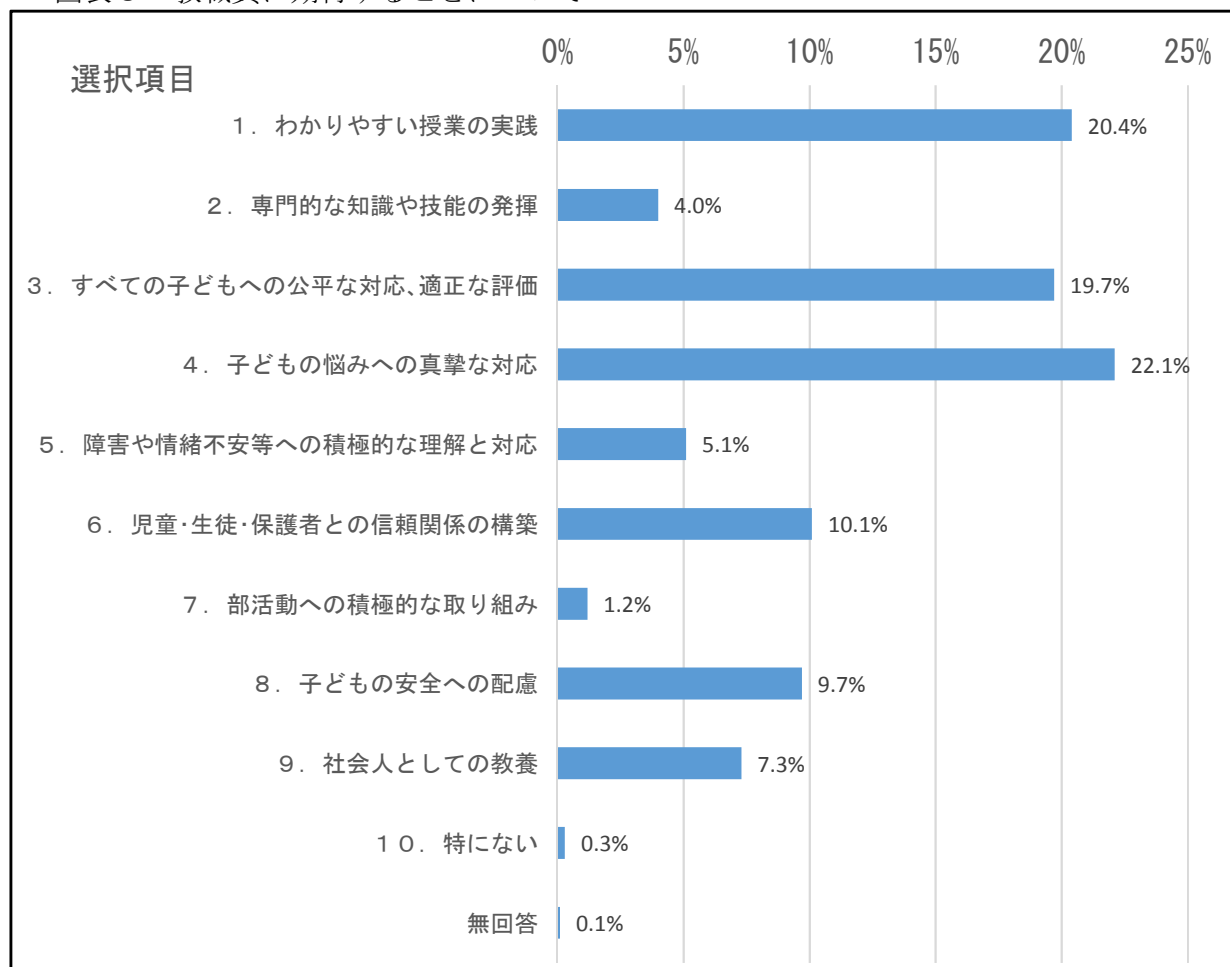
 1. わかりやすい授業の実践
 2. 専門的な知識や技能の発揮
 3. すべての子どもへの公平な対応、適正な評価
 4. 子どもの悩み(友達関係・いじめ・進路・非行など)への真摯な対応
 5. 障害や情緒不安などへの積極的な理解と対応
 6. 児童・生徒・保護者との信頼関係の構築
 7. 部活動への積極的な取り組み
 8. 子どもの安全(危機管理)への配慮
 9. 社会人としての教養
 10. 特にない

[調査結果の概要]

○教職員に対する期待は、「子どもの悩みへの真摯な対応」「わかりやすい授業の実践」「すべての子どもへの公平な対応、適正な評価」の割合がそれぞれ高い。(図表8)

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ても、回答者全体と同様の項目への期待が高い。(図表9)

図表8 教職員に期待することについて



図表9

(上段：人)

		問9) 教職員に期待することについて											
問4) 回答者の子ども	合計	1 ・ わかりやすい授業の実践	2 ・ 専門的な知識や技能の発揮	3 ・ 適正な評価	4 ・ すべての子どもへの公平な対応	5 ・ 子どもの悩みへの真摯な対応	6 ・ 障害や情緒不安等への積極的な対応	7 ・ 児童・生徒・保護者との信頼関係の構築	8 ・ 部活動への積極的な取り組み	9 ・ 子どもの安全への配慮	10 ・ 社会人としての教養	11 ・ 特になし	無回答
全体N値	3,513 100.0%	716 20.4%	142 4.0%	693 19.7%	778 22.1%	179 5.1%	354 10.1%	42 1.2%	341 9.7%	255 7.3%	9 0.3%	4 0.1%	
未就学児	275 100.0%	58 21.1%	9 3.3%	54 19.6%	66 24.0%	11 4.0%	21 7.6%	0 0.0%	39 14.2%	17 6.2%	0 0.0%	0 0.0%	
小学生	268 100.0%	58 21.6%	10 3.7%	50 18.7%	66 24.6%	13 4.9%	24 9.0%	4 1.5%	28 10.4%	14 5.2%	0 0.0%	1 0.4%	
中学生	196 100.1%	46 23.5%	14 7.1%	28 14.3%	39 19.9%	9 4.6%	19 9.7%	5 2.6%	16 8.2%	20 10.2%	0 0.0%	0 0.0%	
高校生	186 100.1%	42 22.6%	10 5.4%	34 18.3%	38 20.4%	11 5.9%	20 10.8%	4 2.2%	13 7.0%	13 7.0%	1 0.5%	0 0.0%	
大学生等	218 99.9%	48 22.0%	13 6.0%	39 17.9%	50 22.9%	11 5.0%	21 9.6%	0 0.0%	16 7.3%	20 9.2%	0 0.0%	0 0.0%	
社会人	1,519 100.3%	297 19.6%	51 3.4%	330 21.7%	337 22.2%	77 5.1%	165 10.9%	19 1.3%	150 9.9%	88 5.8%	4 0.3%	1 0.1%	
無回答	12 100.0%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	
子どもなし	839 100.0%	166 19.8%	33 3.9%	158 18.8%	179 21.3%	45 5.4%	83 9.9%	10 1.2%	79 9.4%	81 9.7%	4 0.5%	1 0.1%	

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問9) 教職員に期待することについて										
小学校区	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答
全体	3,021 100.0%	609 20.2%	116 3.8%	603 20.0%	670 22.2%	152 5.0%	307 10.2%	34 1.1%	300 9.9%	219 7.2%	8 0.3%	3 0.1%
石動小	1,032 100.1%	208 20.2%	42 4.1%	202 19.6%	216 20.9%	44 4.3%	124 12.0%	17 1.6%	95 9.2%	80 7.8%	2 0.2%	2 0.2%
東部小	322 100.0%	65 20.2%	16 5.0%	63 19.6%	75 23.3%	14 4.3%	37 11.5%	2 0.6%	31 9.6%	17 5.3%	1 0.3%	1 0.3%
大谷小	713 99.9%	139 19.5%	29 4.1%	146 20.5%	160 22.4%	33 4.6%	68 9.5%	5 0.7%	83 11.6%	49 6.9%	1 0.1%	0 0.0%
蟹谷小	449 100.1%	91 20.3%	16 3.6%	99 22.0%	100 22.3%	32 7.1%	29 6.5%	4 0.9%	47 10.5%	28 6.2%	3 0.7%	0 0.0%
津沢小	505 100.0%	106 21.0%	13 2.6%	93 18.4%	119 23.6%	29 5.7%	49 9.7%	6 1.2%	44 8.7%	45 8.9%	1 0.2%	0 0.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

(10) 学校と地域との関係について

・ 学校が地域に果たす役割について、どのように考えますか。(各項目、1つ回答)

ア 避難所としての機能

イ 住民のスポーツ活動の場としての機能

ウ スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能

エ 住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能

オ 地域のシンボル、心の拠り所としての機能

(選択肢) 1. とても重要 2. 重要 3. どちらともいえない
4. あまり重要とは言えない 5. 重要ではない

[調査結果の概要]

○「とても重要」とする割合が高かったのは、「ア 避難所としての機能」であり、39.8%となっている。次が「イ スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能」であり、22.2%となっている。

「イ 住民のスポーツ活動の場としての機能」「エ 住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能」「オ 地域のシンボル、心の拠り所としての機能」については、共に「重要」とする意見が最も高いが、「どちらともいえない」が共に約33%となっている。(図表10)

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「ア 避難所としての機能」を「とても重要」とする割合が高くなっている。

回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「イ 住民のスポーツ活動の場としての機能」「ウ スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能」「オ 地域のシンボル、心の拠り所としての機能」を共に「重要」とする意見が最も高い。(図表11)

図表10

問10) 学校と地域との関係について	とても重要	重要	どちらとも 言えない	あまり重要と は言えない	重要ではない	無回答
ア 避難所としての機能	39.8%	43.8%	12.5%	2.9%	0.7%	0.4%
イ 住民のスポーツ活動の場としての機能	12.9%	43.7%	33.1%	8.2%	1.7%	0.5%
ウ スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能	22.2%	51.6%	21.4%	3.4%	1.0%	0.5%
エ 住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能	14.3%	42.1%	33.3%	7.1%	2.8%	0.4%
オ 地域のシンボル、心の拠り所としての機能	13.9%	39.8%	33.2%	9.0%	3.5%	0.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

図表 1 1 小学生・中学生の保護者に限定

問 1 0) 学校と地域との関係 について	とても重要	重要	どちらとも 言えない	あまり重要と は言えない	重要ではない	無回答
ア 避難所としての機能	49.1%	36.5%	7.5%	5.7%	1.3%	0.0%
イ 住民のスポーツ活動の場としての機能	14.5%	44.7%	32.7%	5.0%	3.1%	0.0%
ウ スポーツ少年団等の子ども達の活動の場としての機能	26.4%	45.3%	22.6%	4.4%	1.3%	0.0%
エ 住民運動会など、住民のコミュニティ活動の拠点としての機能	17.0%	36.5%	37.1%	5.0%	4.4%	0.0%
オ 地域のシンボル、心の拠り所としての機能	13.8%	39.6%	36.5%	5.7%	4.4%	0.0%

*網掛け表示は各項目の最大値

(11) 学校と地域との関わりについて

- ・学校と地域との関わりで、どのようなことが重要だと考えますか。（主なもの3つまで回答）

（選択肢）

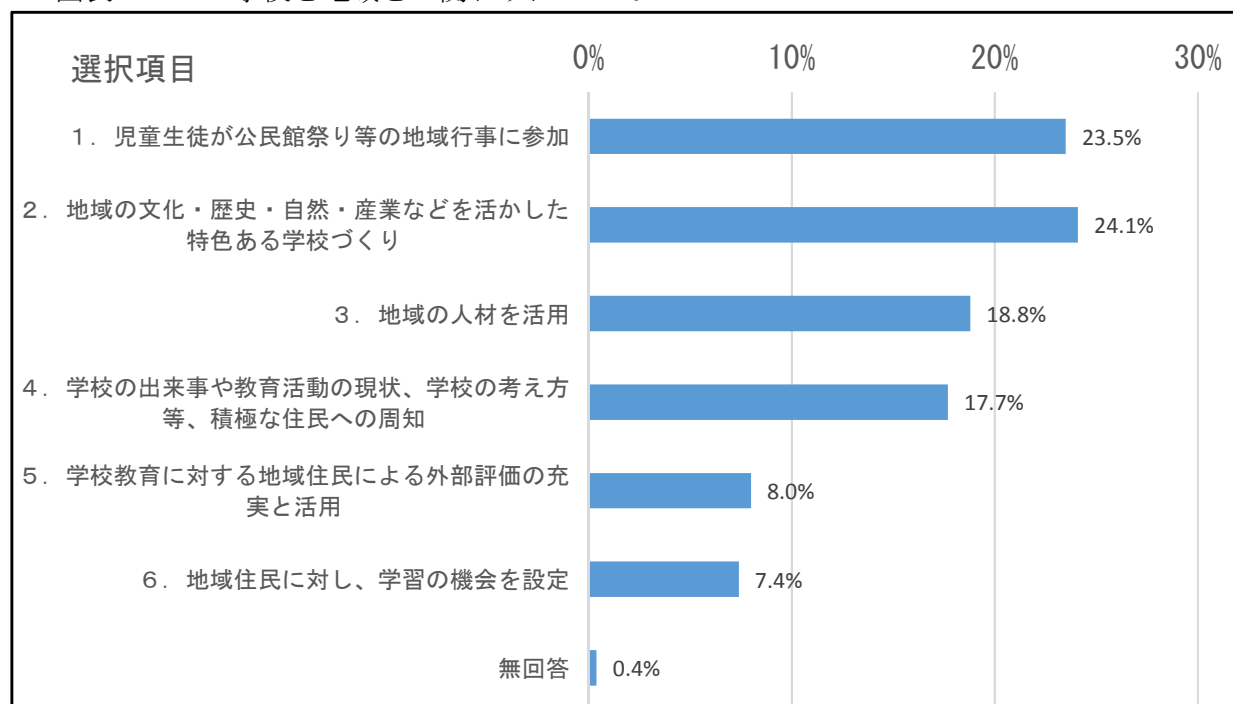
1. 児童生徒が公民館祭り等の地域行事に参加する。
2. 地域の文化・歴史・自然・産業などを活かした特色ある学校づくりをすすめる。
3. 地域の人材を活用する。
4. 学校の出来事や教育活動の現状、学校の考え方等をより積極的に住民に知らせる。
5. 学校教育に対する地域住民による外部評価の充実と活用を図る。
6. 地域住民に対し、学習の機会を設ける。

[調査結果の概要]

○学校と地域との関わりで重要なことは、「地域の文化・歴史・自然・産業などを活かした特色ある学校づくり」「児童生徒が公民館祭り等の地域行事に参加」「地域の人材を活用」の順に割合が高い。（図表12）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「児童生徒が公民館祭り等の地域行事に参加」の割合が最も高いが、回答者全体と、ほぼ同様の傾向となっている。（図表13）

図表12 学校と地域との関わりについて



図表 1 3

(上段：人)

		問 1 1) 学校と地域との関わりについて							
問 4) 回答者の子ども	合計	等 1 の、 地 児 域 童 行 生 事 徒 に が 参 公 加 民 館 祭 り	色 然 2 あ ・ ・ る 産 地 学 業 域 校 な の づ ど 文 く を 化 り 活 ・ か 歴 し 史 た ・ 特 自	3 ・ 地 域 の 人 材 を 活 用	等 動 4 の、 積 現 学 極 状 校 な 積 積 住 民 校 校 出 来 へ の 事 周 え 考 知 方 査 活 活 活	と 住 5 活 民、 用 に 学 校 教 よ る 育 外 部 に 評 価 す る 充 地 実 域	の 6 機、 地 会 域 を 設 住 定 民 に 対 し、 学 習	無 回 答	
全体N値	3,215 99.9%	757 23.5%	776 24.1%	605 18.8%	569 17.7%	257 8.0%	237 7.4%	14 0.4%	
未就学児	249 100.0%	68 27.3%	58 23.3%	47 18.9%	36 14.5%	24 9.6%	15 6.0%	1 0.4%	
小学生	251 100.0%	72 28.7%	58 23.1%	52 20.7%	41 16.3%	14 5.6%	13 5.2%	1 0.4%	
中学生	179 100.0%	48 26.8%	44 24.6%	31 17.3%	30 16.8%	11 6.1%	15 8.4%	0 0.0%	
高校生	170 100.0%	42 24.7%	43 25.3%	35 20.6%	24 14.1%	12 7.1%	14 8.2%	0 0.0%	
大学生等	195 100.1%	43 22.1%	56 28.7%	45 23.1%	25 12.8%	13 6.7%	13 6.7%	0 0.0%	
社会人	1,387 100.0%	311 22.4%	334 24.1%	263 19.0%	266 19.2%	108 7.8%	99 7.1%	6 0.4%	
無回答	11 100.1%	1 9.1%	3 27.3%	3 27.3%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	
子どもなし	773 100.1%	172 22.3%	180 23.3%	129 16.7%	145 18.8%	75 9.7%	67 8.7%	5 0.6%	

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 1) 学校と地域との関わりについて							
小学校区	合計	1	2	3	4	5	6	無 回 答	
全体	2,765 100.1%	641 23.2%	663 24.0%	507 18.3%	504 18.2%	231 8.4%	206 7.5%	13 0.5%	
石動小	937 100.0%	208 22.2%	228 24.3%	162 17.3%	172 18.4%	87 9.3%	77 8.2%	3 0.3%	
東部小	295 100.1%	63 21.4%	79 26.8%	56 19.0%	50 16.9%	27 9.2%	18 6.1%	2 0.7%	
大谷小	659 100.0%	163 24.7%	143 21.7%	134 20.3%	114 17.3%	58 8.8%	44 6.7%	3 0.5%	
蟹谷小	413 100.0%	99 24.0%	97 23.5%	75 18.2%	81 19.6%	32 7.7%	28 6.8%	1 0.2%	
津沢小	461 100.2%	108 23.4%	116 25.2%	80 17.4%	87 18.9%	27 5.9%	39 8.5%	4 0.9%	

*網掛け表示は各項目の最大値

(12) 地域の学校への協力について

- ・ 地域は学校に対して、どのような協力をするべきだと考えますか。（主なもの3つまで回答）

(選択肢)

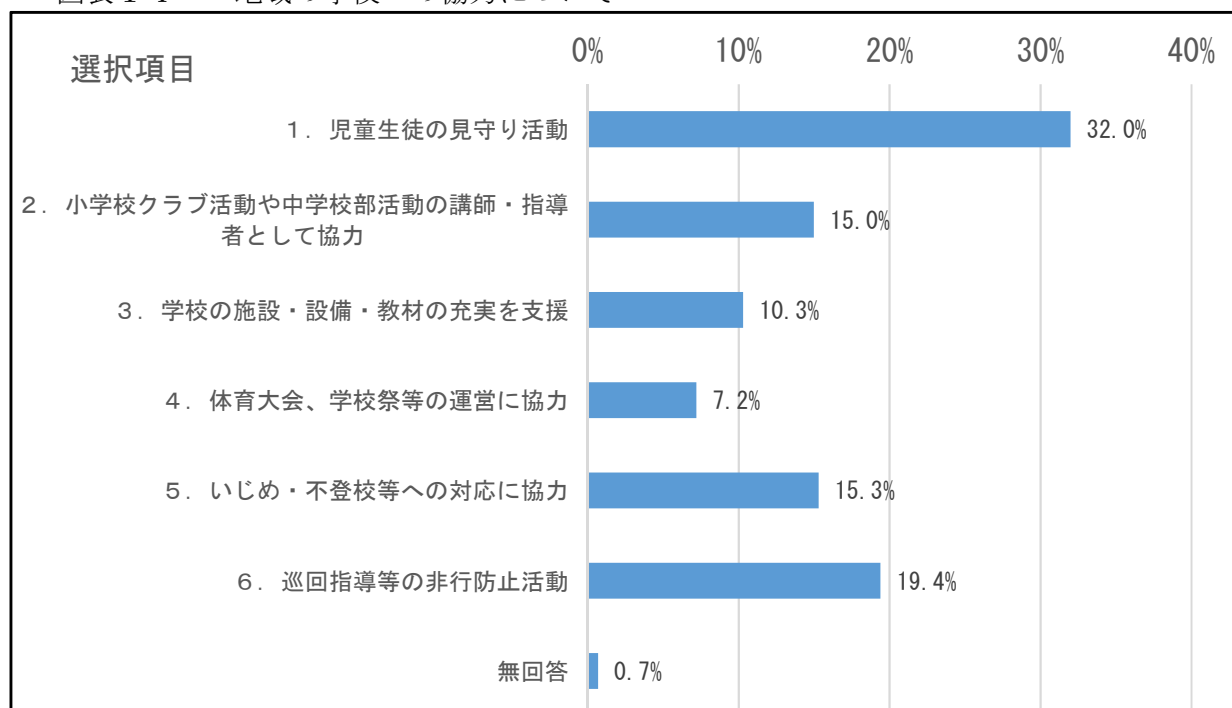
1. 児童生徒の見守り活動を行う。
2. 小学校クラブ活動や中学校部活動の講師・指導者として協力する。
3. 学校の施設・設備・教材の充実を支援する。
4. 体育大会、学校祭等の運営に協力する。
5. いじめ・不登校等への対応に協力する。
6. 巡回指導等の非行防止活動を行う。

[調査結果の概要]

○地域の学校への協力で重要なことは、「児童生徒の見守り活動」が 32.0%と高く、次に「巡回指導等の非行防止活動」「いじめ・不登校等への対応に協力」の順となっている。（図表14）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「児童生徒の見守り活動」とする割合がそれぞれ 33.3% と 31.9% となり、回答者全体と同様に高くなっている。（図表15）

図表14 地域の学校への協力について



図表 1 5

(上段：人)

		問 1 2) 地域の学校への協力について						
問 4) 回答者の子ども	合計	1 ・児童生徒の見守り活動	と学2 し校. て部小 協活動 力のク 講師 ・活 指導 者中	材3 の. 充実 をの 支 援 ・設 備 ・教	運4 営. に体 育大 会、 学 校祭 等 の	対5 応. にい じめ ・不 登校 等 への	活6 動. 巡 回指 導等 の非 行防 止	無 回 答
全体N値	3,243 99.9%	1,038 32.0%	488 15.0%	335 10.3%	234 7.2%	497 15.3%	629 19.4%	22 0.7%
未就学児	255 100.0%	82 32.2%	40 15.7%	23 9.0%	23 9.0%	32 12.5%	54 21.2%	1 0.4%
小学生	252 100.0%	84 33.3%	46 18.3%	25 9.9%	15 6.0%	30 11.9%	51 20.2%	1 0.4%
中学生	182 100.0%	58 31.9%	37 20.3%	22 12.1%	13 7.1%	20 11.0%	32 17.6%	0 0.0%
高校生	168 99.9%	50 29.8%	34 20.2%	17 10.1%	14 8.3%	20 11.9%	32 19.0%	1 0.6%
大学生等	200 100.0%	69 34.5%	40 20.0%	18 9.0%	13 6.5%	22 11.0%	38 19.0%	0 0.0%
社会人	1,408 100.1%	456 32.4%	181 12.9%	143 10.2%	96 6.8%	241 17.1%	280 19.9%	11 0.8%
無回答	13 100.1%	3 23.1%	1 7.7%	0 0.0%	1 7.7%	4 30.8%	3 23.1%	1 7.7%
子どもなし	765 99.9%	236 30.8%	109 14.2%	87 11.4%	59 7.7%	128 16.7%	139 18.2%	7 0.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 2) 地域の学校への協力について						
小学校区	合計	1	2	3	4	5	6	無 回 答
全体	2,785 100.1%	890 32.0%	400 14.4%	288 10.3%	198 7.1%	448 16.1%	540 19.4%	21 0.8%
石動小	940 100.0%	312 33.2%	128 13.6%	88 9.4%	59 6.3%	168 17.9%	179 19.0%	6 0.6%
東部小	288 100.1%	94 32.6%	42 14.6%	28 9.7%	18 6.3%	52 18.1%	50 17.4%	4 1.4%
大谷小	675 100.0%	212 31.4%	94 13.9%	81 12.0%	52 7.7%	99 14.7%	132 19.6%	5 0.7%
蟹谷小	416 100.0%	128 30.8%	64 15.4%	43 10.3%	33 7.9%	63 15.1%	83 20.0%	2 0.5%
津沢小	466 100.1%	144 30.9%	72 15.5%	48 10.3%	36 7.7%	66 14.2%	96 20.6%	4 0.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

(13) 学級数や児童生徒数の影響について

- ・小中学校において学級数や児童生徒数が少ない場合について、どのように考えますか。(1つ回答)

(選択肢)

1. 子ども一人ひとりの役割が大きくなり、責任をもった行動が期待できる
2. 子どもの人数が減ることで、教師の丁寧な指導が期待できる
3. 子ども一人ひとりが大事にされ、深い愛情を受けて育つことが期待できる
4. 子どもの人数や学級の減少により、子ども同士で高めあう活気が薄れることが不安である
5. 友達や教師と交わる機会が減り、子どもが多様な見方を育みにくくなるのが不安である
6. 子どもの人数や学級数の減少に伴って教師の人数が減ることで、子どもへの多様な支援ができなくなることが不安である

[調査結果の概要]

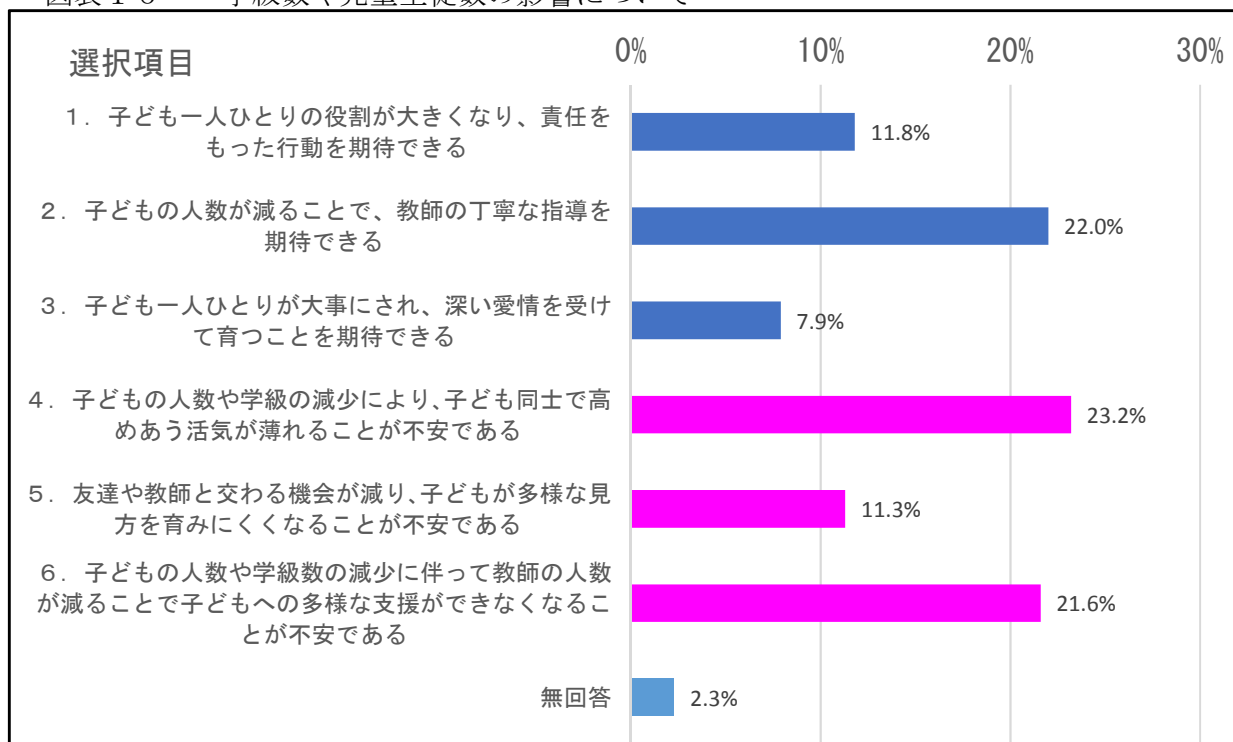
○回答者全体で見ると、学級数や学級の人数が減ることによるデメリットを懸念する意見（回答4～6の計）が56.1%であり、メリットを感じる意見（回答1～3の計）の41.7%を若干上回っている。（図表16）

○回答者を小学生の保護者について見ると、回答者全体の傾向とほぼ同様となっている。

○回答者を中学生の保護者について見ると、デメリットを懸念する意見（回答4～6の計）が67.2%であり、メリットを感じる意見（回答1～3の計）の32.9%を大きく上回っている。

中学生保護者では「子どもの人数や学級数の減少に伴って教師の人数が減ることで、子どもへの多様な支援ができなくなることが不安である」に対する割合が32.8%と高くなっており、子どもが小学生から中学生へ成長する過程で、保護者の感じ方が変化している。（図表17）

図表16 学級数や児童生徒数の影響について



図表 1 7

(上段：人)

		問 1 3) 学級数や児童生徒数の影響について								
問 4) 回答者の子ども	合計	待き 1	教 2	期れ 3	計	がよ 4	くり 5	な子に 6	計	無回答
		でく. 子 できなり、も 責任をひとり もつたの行 動割が期大	師. 子 の子ども の人数が 減ること で、	待、. 子 深いも 愛情一人 を受け て育つ ことさ		が薄り. 子 る子ども の人数や 学級の減 活少に	く、. 友 なること が不安 である 育み減	る伴. 子 もへの教 師の人数 や学級 数の減 少		
全体N値	1,191 100.1%	141 11.8%	262 22.0%	94 7.9%	41.7%	276 23.2%	134 11.3%	257 21.6%	56.1%	27 2.3%
未就学児	93 100.0%	8 8.6%	24 25.8%	11 11.8%	46.2%	24 25.8%	14 15.1%	11 11.8%	52.7%	1 1.1%
小学生	92 100.1%	14 15.2%	18 19.6%	7 7.6%	42.4%	19 20.7%	8 8.7%	24 26.1%	55.5%	2 2.2%
中学生	67 100.1%	4 6.0%	13 19.4%	5 7.5%	32.9%	17 25.4%	6 9.0%	22 32.8%	67.2%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	3 4.8%	19 30.2%	2 3.2%	38.2%	18 28.6%	6 9.5%	13 20.6%	58.7%	2 3.2%
大学生等	75 99.9%	7 9.3%	13 17.3%	10 13.3%	39.9%	22 29.3%	5 6.7%	16 21.3%	57.3%	2 2.7%
社会人	513 100.0%	68 13.3%	101 19.7%	37 7.2%	40.2%	116 22.6%	58 11.3%	120 23.4%	57.3%	13 2.5%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	80.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	36 12.7%	71 25.1%	22 7.8%	45.6%	60 21.2%	37 13.1%	51 18.0%	52.3%	6 2.1%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 3) 学級数や児童生徒数の影響について								
小学校区	合計	1	2	3	計	4	5	6	計	無回答
全体	1,022 99.9%	129 12.6%	221 21.6%	81 7.9%	42.1%	235 23.0%	115 11.3%	217 21.2%	55.5%	24 2.3%
石動小	348 100.1%	42 12.1%	71 20.4%	25 7.2%	39.7%	90 25.9%	41 11.8%	71 20.4%	58.1%	8 2.3%
東部小	110 99.9%	18 16.4%	23 20.9%	11 10.0%	47.3%	27 24.5%	11 10.0%	16 14.5%	49.0%	4 3.6%
大谷小	241 99.9%	30 12.4%	60 24.9%	20 8.3%	45.6%	50 20.7%	20 8.3%	54 22.4%	51.4%	7 2.9%
蟹谷小	153 100.1%	20 13.1%	28 18.3%	7 4.6%	36.0%	33 21.6%	27 17.6%	37 24.2%	63.4%	1 0.7%
津沢小	170 100.0%	19 11.2%	39 22.9%	18 10.6%	44.7%	35 20.6%	16 9.4%	39 22.9%	52.9%	4 2.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

(14) 小学校の学校規模について

- ・本市の状況をふまえ、小学校において1つの学年の学級数、1学級あたりの児童数は、どの程度が望ましいと考えますか。(各項目、1つ回答)

ア 小学校における1学年での望ましい学級数

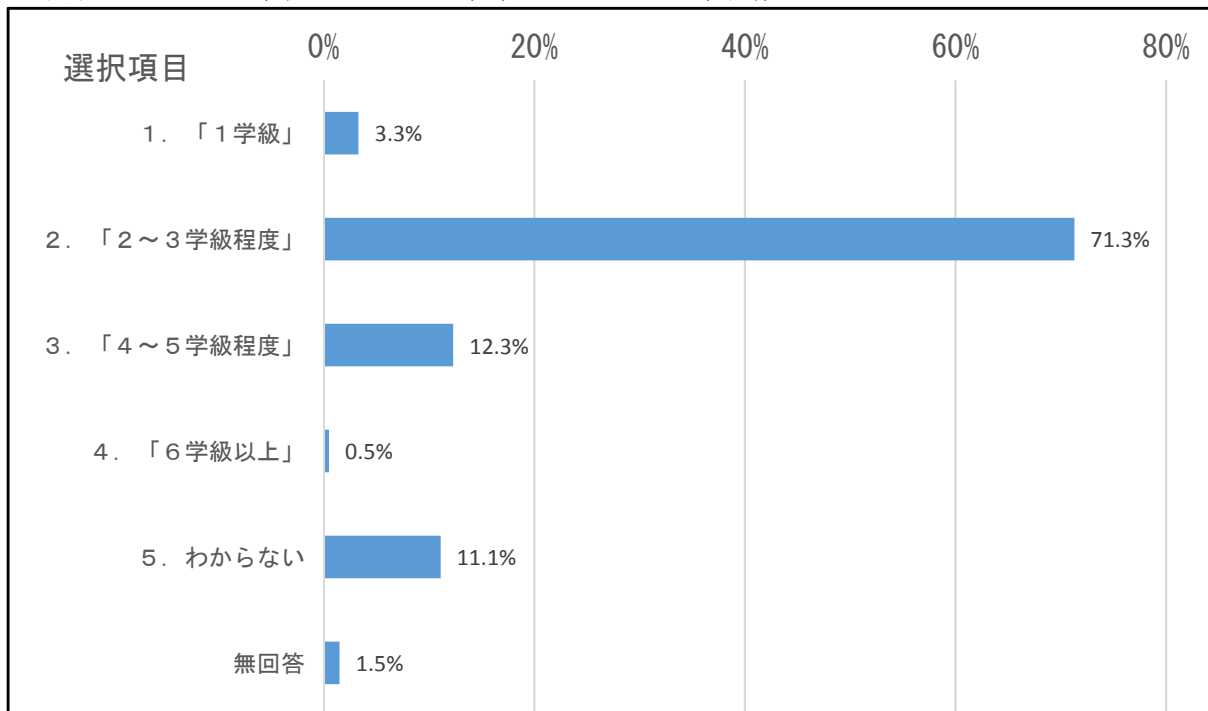
- (選択肢) 1. 1学級 2. 2～3学級程度 3. 4～5学級程度
 4. 6学級以上 5. わからない

[調査結果の概要]

○小学校における1学年での望ましい学級数は「2～3学級程度」が 71.3%となっている。(図表18)

○回答者を未就学児と小学生の保護者について見ると、「2～3学級程度」を望む割合はそれぞれ 79.6% と 79.3% と更に高まっている。(図表19)

図表18 小学校における1学年での望ましい学級数



図表 19

(上段：人)

		問 1 4) ア 小学校における 1 学年での望ましい学級数					
問 4) 回答者の子ども	合計	1 ・ 「1 学級」	2 ・ 「2 ～ 3 学級程度」	3 ・ 「4 ～ 5 学級程度」	4 ・ 「6 学級以上」	5 ・ わからない	無回答
全体N値	1,191 100.0%	39 3.3%	849 71.3%	147 12.3%	6 0.5%	132 11.1%	18 1.5%
未就学児	93 100.1%	4 4.3%	74 79.6%	9 9.7%	0 0.0%	6 6.5%	0 0.0%
小学生	92 99.9%	4 4.3%	73 79.3%	12 13.0%	0 0.0%	2 2.2%	1 1.1%
中学生	67 100.0%	3 4.5%	50 74.6%	10 14.9%	0 0.0%	4 6.0%	0 0.0%
高校生	63 100.0%	0 0.0%	45 71.4%	14 22.2%	0 0.0%	3 4.8%	1 1.6%
大学生等	75 100.0%	2 2.7%	54 72.0%	13 17.3%	0 0.0%	5 6.7%	1 1.3%
社会人	513 100.1%	17 3.3%	357 69.6%	63 12.3%	1 0.2%	66 12.9%	9 1.8%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.1%	8 2.8%	193 68.2%	26 9.2%	5 1.8%	46 16.3%	5 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 4) ア 小学校における 1 学年での望ましい学級数					
小学校区	合計	1 ・ 「1 学級」	級 2 程 度 「2 ～ 3 学	級 3 程 度 「4 ～ 5 学	上 4 「6 学級以	5 ・ わからない	無回答
全体	1,022 100.0%	34 3.3%	718 70.3%	121 11.8%	7 0.7%	125 12.2%	17 1.7%
石動小	348 99.9%	5 1.4%	226 64.9%	65 18.7%	2 0.6%	46 13.2%	4 1.1%
東部小	110 100.0%	6 5.5%	75 68.2%	13 11.8%	0 0.0%	13 11.8%	3 2.7%
大谷小	241 99.9%	6 2.5%	183 75.9%	20 8.3%	0 0.0%	29 12.0%	3 1.2%
蟹谷小	153 99.9%	10 6.5%	107 69.9%	10 6.5%	3 2.0%	21 13.7%	2 1.3%
津沢小	170 99.9%	7 4.1%	127 74.7%	13 7.6%	2 1.2%	16 9.4%	5 2.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

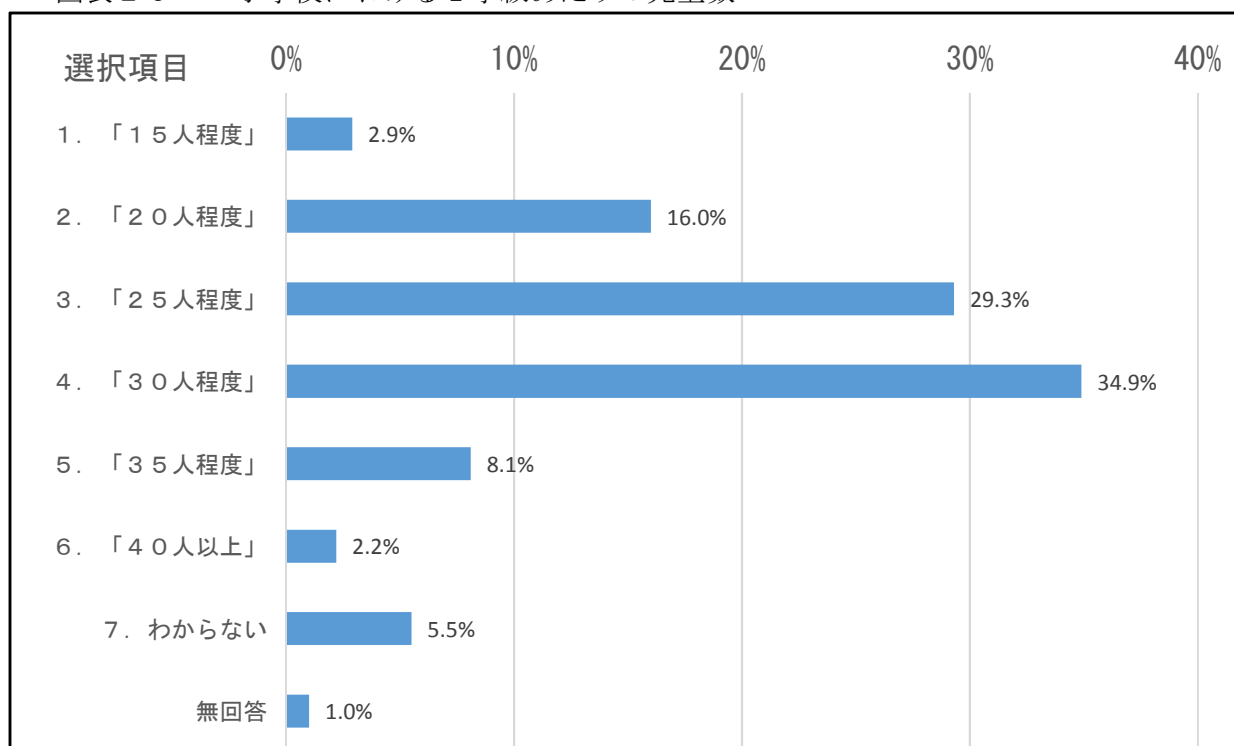
イ 小学校における1学級あたりの児童数

- (選択肢) 1. 15人程度 2. 20人程度 3. 25人程度
4. 30人程度 5. 35人程度 6. 40人以下
7. わからない

[調査結果の概要]

○小学校における1学級あたりの望ましい児童数は「30人程度」が 34.9%と高く、次いで「25人程度」が 29.3% となっている。(図表20)
○回答者を未就学児と小学生の保護者について見ると、「25人程度」を望む割合がそれぞれ 41.9% と 32.6% と最も高く、次いで「30人程度」となっている。(図表21)

図表20 小学校における1学級あたりの児童数



図表 2 1

(上段：人)

		問 1 4) イ 小学校における 1 学級あたりの児童数							
問 4) 回答者の子ども	合計	1 ・ 「 1 5 人 程 度 」	2 ・ 「 2 0 人 程 度 」	3 ・ 「 2 5 人 程 度 」	4 ・ 「 3 0 人 程 度 」	5 ・ 「 3 5 人 程 度 」	6 ・ 「 4 0 人 以 上 」	7 ・ わ か ら な い	無 回 答
全体N値	1,191 99.9%	35 2.9%	191 16.0%	349 29.3%	416 34.9%	97 8.1%	26 2.2%	65 5.5%	12 1.0%
未就学児	93 100.1%	1 1.1%	19 20.4%	39 41.9%	21 22.6%	5 5.4%	2 2.2%	6 6.5%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	3 3.3%	22 23.9%	30 32.6%	28 30.4%	5 5.4%	2 2.2%	1 1.1%	1 1.1%
中学生	67 100.1%	3 4.5%	11 16.4%	16 23.9%	29 43.3%	6 9.0%	1 1.5%	1 1.5%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	3 4.8%	10 15.9%	14 22.2%	25 39.7%	8 12.7%	1 1.6%	2 3.2%	0 0.0%
大学生等	75 100.1%	3 4.0%	9 12.0%	21 28.0%	29 38.7%	9 12.0%	2 2.7%	2 2.7%	0 0.0%
社会人	513 99.9%	12 2.3%	70 13.6%	153 29.8%	194 37.8%	38 7.4%	9 1.8%	31 6.0%	6 1.2%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 99.9%	10 3.5%	50 17.7%	74 26.1%	89 31.4%	26 9.2%	8 2.8%	22 7.8%	4 1.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 4) イ 小学校における 1 学級あたりの児童数							
小学校区	合計	1 ・ 「 1 5 人 程 度 」	2 ・ 「 2 0 人 程 度 」	3 ・ 「 2 5 人 程 度 」	4 ・ 「 3 0 人 程 度 」	5 ・ 「 3 5 人 程 度 」	6 ・ 「 4 0 人 以 上 」	7 ・ わ か ら な い	無 回 答
全体	1,022 100.0%	29 2.8%	162 15.9%	303 29.6%	351 34.3%	81 7.9%	23 2.3%	61 6.0%	12 1.2%
石動小	348 100.0%	6 1.7%	37 10.6%	102 29.3%	137 39.4%	34 9.8%	7 2.0%	22 6.3%	3 0.9%
東部小	110 99.9%	7 6.4%	19 17.3%	37 33.6%	25 22.7%	5 4.5%	2 1.8%	12 10.9%	3 2.7%
大谷小	241 99.9%	3 1.2%	34 14.1%	67 27.8%	98 40.7%	16 6.6%	7 2.9%	14 5.8%	2 0.8%
蟹谷小	153 100.1%	5 3.3%	30 19.6%	42 27.5%	50 32.7%	10 6.5%	6 3.9%	9 5.9%	1 0.7%
津沢小	170 100.1%	8 4.7%	42 24.7%	55 32.4%	41 24.1%	16 9.4%	1 0.6%	4 2.4%	3 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

(15) 中学校の学校規模について

- ・本市の状況をふまえ、中学校において1つの学年の学級数、1学級あたりの生徒数は、どの程度が望ましいと考えますか。(各項目、1つ回答)

ア 中学校における1学年での望ましい学級数

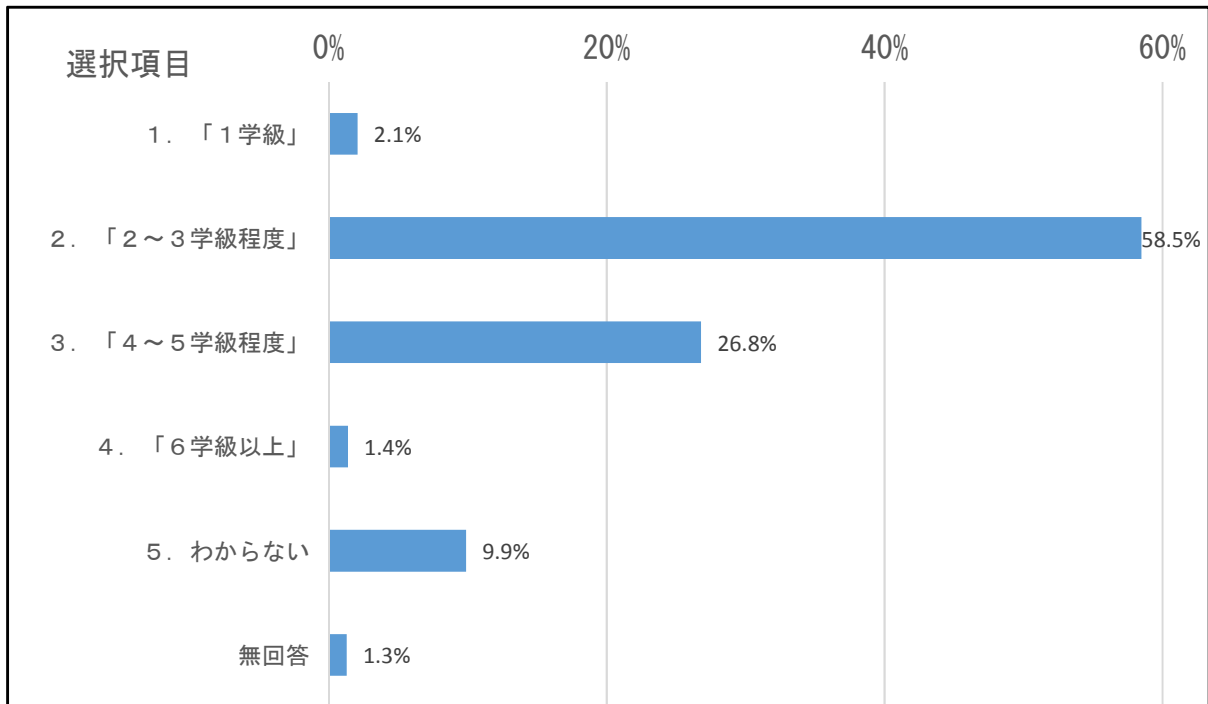
- (選択肢) 1. 1学級 2. 2～3学級程度 3. 4～5学級程度
 4. 6学級以上 5. わからない

[調査結果の概要]

○中学校における1学年での望ましい学級数は「2～3学級程度」が 58.5% となっている。(図表22)

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「2～3学級程度」を望む割合はそれぞれ 59.8% と 74.6% と更に高まっている。(図表23)

図表22 中学校における1学年での望ましい学級数



図表 2 3

(上段：人)

		問 1 5) ア 中学校における 1 学年での望ましい学級数					
問 4) 回答者の子ども	合計	1 ・ 「1 学級」	2 ・ 「2 ～ 3 学級程度」	3 ・ 「4 ～ 5 学級程度」	4 ・ 「6 学級以上」	5 ・ わからない	無回答
全体N値	1,191 100.0%	25 2.1%	697 58.5%	319 26.8%	17 1.4%	118 9.9%	15 1.3%
未就学児	93 100.0%	1 1.1%	48 51.6%	36 38.7%	0 0.0%	8 8.6%	0 0.0%
小学生	92 100.1%	3 3.3%	55 59.8%	28 30.4%	2 2.2%	3 3.3%	1 1.1%
中学生	67 100.0%	2 3.0%	50 74.6%	12 17.9%	1 1.5%	2 3.0%	0 0.0%
高校生	63 100.1%	0 0.0%	35 55.6%	21 33.3%	3 4.8%	3 4.8%	1 1.6%
大学生等	75 100.0%	2 2.7%	44 58.7%	21 28.0%	1 1.3%	6 8.0%	1 1.3%
社会人	513 100.0%	11 2.1%	297 57.9%	138 26.9%	4 0.8%	56 10.9%	7 1.4%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	5 1.8%	165 58.3%	63 22.3%	6 2.1%	40 14.1%	4 1.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 5) ア 中学校における 1 学年での望ましい学級数					
小学校区	合計	1 ・ 「1 学級」	級 2 程 度「 2 ～ 3 学	級 3 程 度「 4 ～ 5 学	上 4 「 6 学級以	5 ・ わからない	無回答
全体	1,022 100.1%	21 2.1%	592 57.9%	271 26.5%	13 1.3%	111 10.9%	14 1.4%
石動小	348 99.9%	4 1.1%	163 46.8%	129 37.1%	5 1.4%	44 12.6%	3 0.9%
東部小	110 100.0%	2 1.8%	52 47.3%	39 35.5%	2 1.8%	12 10.9%	3 2.7%
大谷小	241 99.9%	3 1.2%	159 66.0%	50 20.7%	0 0.0%	27 11.2%	2 0.8%
蟹谷小	153 100.1%	7 4.6%	101 66.0%	22 14.4%	4 2.6%	18 11.8%	1 0.7%
津沢小	170 99.9%	5 2.9%	117 68.8%	31 18.2%	2 1.2%	10 5.9%	5 2.9%

*網掛け表示は各項目の最大値

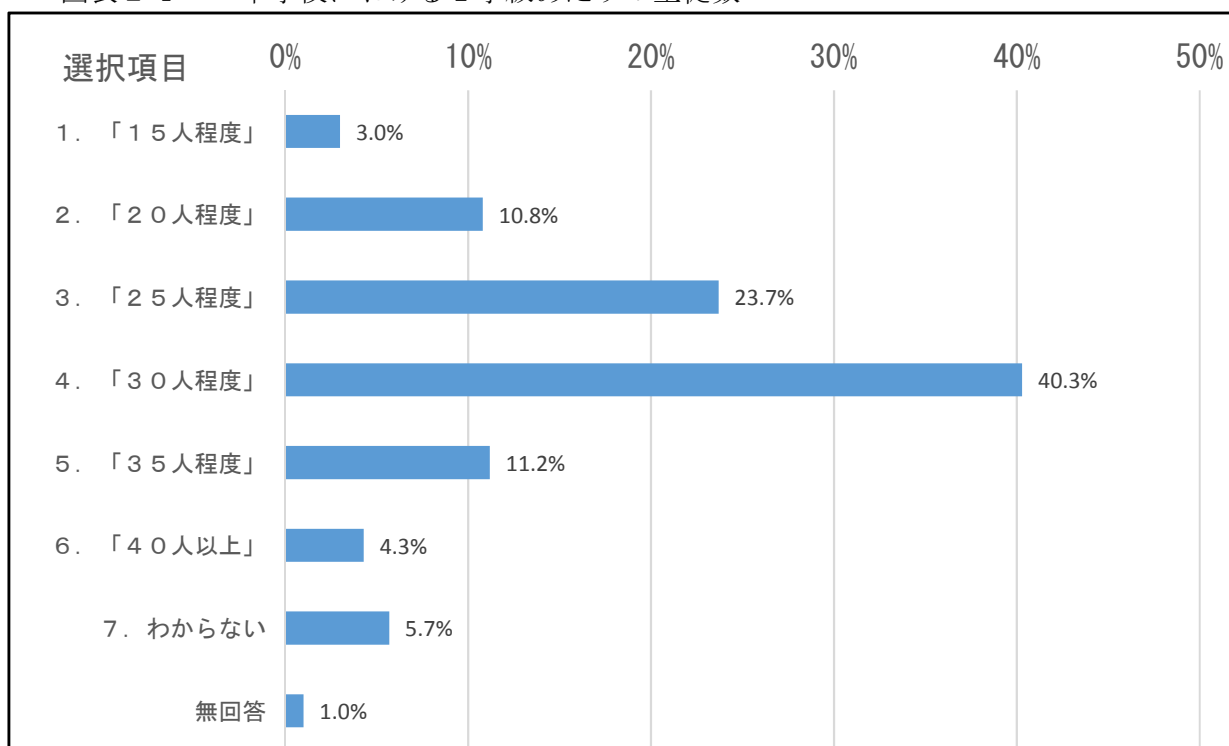
イ 中学校における1学級あたりの生徒数

- (選択肢) 1. 15人程度 2. 20人程度 3. 25人程度
4. 30人程度 5. 35人程度 6. 40人以下
7. わからない

[調査結果の概要]

○中学校における1学級あたりの望ましい生徒数は「30人程度」が 40.3%と高く、次いで「25人程度」が 23.7% となっている。(図表24)
○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「30人程度」を望む割合がそれぞれ 45.7% と 43.3% と更に高く、次いで「25人程度」となっている。(図表25)

図表24 中学校における1学級あたりの生徒数



図表 2 5

(上段：人)

		問 1 5) イ 中学校における 1 学級あたりの生徒数							
問 4) 回答者の子ども	合計	1 ・ 「 1 5 人 程 度 」	2 ・ 「 2 0 人 程 度 」	3 ・ 「 2 5 人 程 度 」	4 ・ 「 3 0 人 程 度 」	5 ・ 「 3 5 人 程 度 」	6 ・ 「 4 0 人 以 上 」	7 ・ わ か ら な い	無 回 答
全体N値	1,191 100.0%	36 3.0%	129 10.8%	282 23.7%	480 40.3%	133 11.2%	51 4.3%	68 5.7%	12 1.0%
未就学児	93 100.0%	1 1.1%	9 9.7%	31 33.3%	36 38.7%	8 8.6%	3 3.2%	5 5.4%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	4 4.3%	12 13.0%	22 23.9%	42 45.7%	8 8.7%	2 2.2%	1 1.1%	1 1.1%
中学生	67 100.0%	4 6.0%	10 14.9%	15 22.4%	29 43.3%	7 10.4%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
高校生	63 99.9%	4 6.3%	5 7.9%	13 20.6%	29 46.0%	7 11.1%	2 3.2%	3 4.8%	0 0.0%
大学生等	75 100.1%	3 4.0%	8 10.7%	13 17.3%	35 46.7%	11 14.7%	3 4.0%	2 2.7%	0 0.0%
社会人	513 100.0%	10 1.9%	46 9.0%	119 23.2%	215 41.9%	56 10.9%	25 4.9%	36 7.0%	6 1.2%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 99.9%	10 3.5%	39 13.8%	68 24.0%	92 32.5%	36 12.7%	13 4.6%	21 7.4%	4 1.4%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 5) イ 中学校における 1 学級あたりの生徒数							
小学校区	合計	1 ・ 「 1 5 人 程 度 」	2 ・ 「 2 0 人 程 度 」	3 ・ 「 2 5 人 程 度 」	4 ・ 「 3 0 人 程 度 」	5 ・ 「 3 5 人 程 度 」	6 ・ 「 4 0 人 以 上 」	7 ・ わ か ら な い	無 回 答
全体	1,022 100.1%	26 2.5%	112 11.0%	247 24.2%	403 39.4%	114 11.2%	45 4.4%	63 6.2%	12 1.2%
石動小	348 100.0%	4 1.1%	25 7.2%	72 20.7%	154 44.3%	52 14.9%	14 4.0%	24 6.9%	3 0.9%
東部小	110 100.0%	2 1.8%	13 11.8%	28 25.5%	38 34.5%	9 8.2%	6 5.5%	11 10.0%	3 2.7%
大谷小	241 100.0%	6 2.5%	29 12.0%	57 23.7%	105 43.6%	18 7.5%	10 4.1%	14 5.8%	2 0.8%
蟹谷小	153 100.0%	4 2.6%	26 17.0%	37 24.2%	53 34.6%	15 9.8%	9 5.9%	8 5.2%	1 0.7%
津沢小	170 100.1%	10 5.9%	19 11.2%	53 31.2%	53 31.2%	20 11.8%	6 3.5%	6 3.5%	3 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

(16) 部活動の今後のあり方について

- ・国では、中央教育審議会やスポーツ庁が、部活動の教育的側面を評価する一方で、将来的には、部活動を学校から地域へ移行すべきであるとの方針を示しています。このような動きに対しては、どのようにお考えですか。（1つ回答）（「中央教育審議会・スポーツ庁等の部活動に係る方針」については、資料編P7を参照ください）

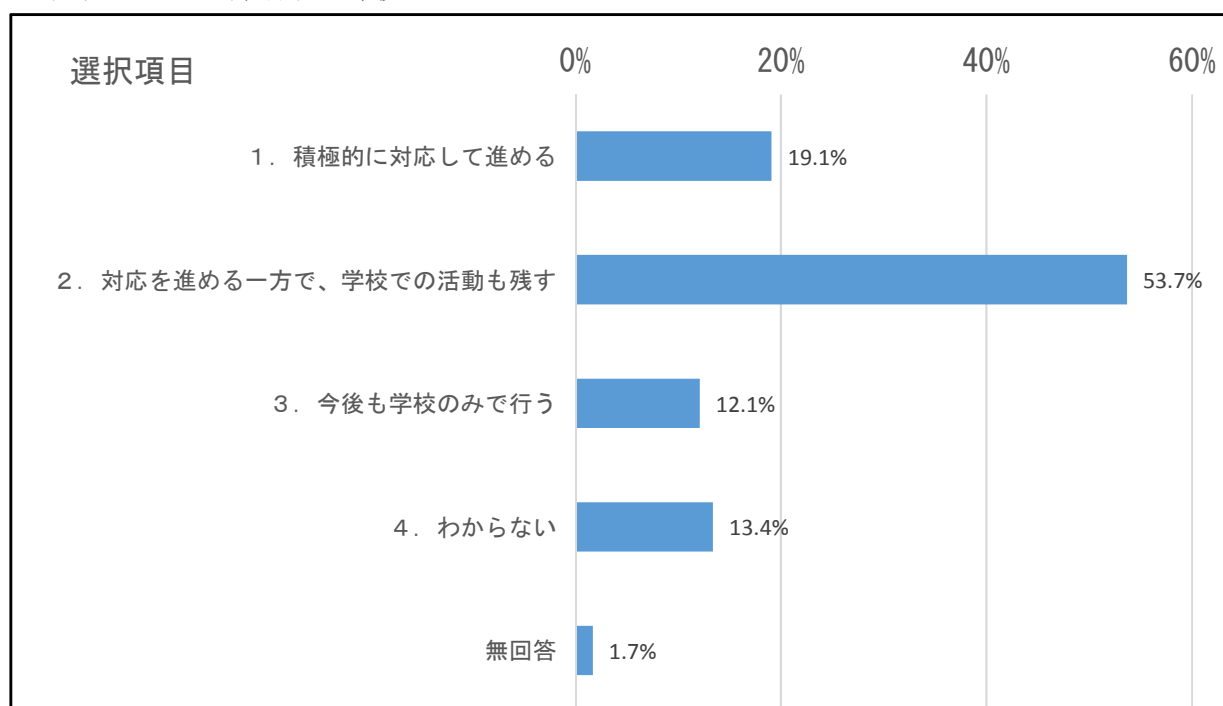
- (選択肢)
1. 積極的に対応して進めることが望ましい
 2. 対応を進める一方で、学校での活動も残すことが望ましい
 3. 今後も学校のみで行うべき
 4. わからない

[調査結果の概要]

○部活動の今後のあり方については、「対応を進める一方で、学校での活動も残す」の割合が 53.7% と最も高く、次いで「積極的に対応して進める」が 19.1% となっている。（図表26）

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、回答者全体の傾向とほぼ同様となっているが、「積極的に対応して進める」の割合がそれぞれ 27.2% と 22.4% となっており、回答者全体の 19.1% より多少高くなっている。（図表27）

図表26 部活動の今後のあり方について



図表 2 7

(上段：人)

		問 1 6) 部活動の今後のあり方について					
問 4) 回答者の子ども	合計	1 進積 め極 める 的 に 対 応	活 動 方 で 対 應 す 学 校 進 め る	み 3 で 行 う 今 後 も 学 校 の	4 . わ か ら な い	無 回 答	
全体N値	1,191 100.0%	228 19.1%	639 53.7%	144 12.1%	160 13.4%	20 1.7%	
未就学児	93 100.1%	25 26.9%	38 40.9%	10 10.8%	19 20.4%	1 1.1%	
小学生	92 100.0%	25 27.2%	46 50.0%	12 13.0%	8 8.7%	1 1.1%	
中学生	67 100.0%	15 22.4%	34 50.7%	6 9.0%	12 17.9%	0 0.0%	
高校生	63 99.9%	16 25.4%	36 57.1%	5 7.9%	6 9.5%	0 0.0%	
大学生等	75 99.9%	15 20.0%	43 57.3%	10 13.3%	7 9.3%	0 0.0%	
社会人	513 99.9%	73 14.2%	299 58.3%	72 14.0%	57 11.1%	12 2.3%	
無回答	5 100.0%	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	
子どもなし	283 100.0%	59 20.8%	140 49.5%	29 10.2%	50 17.7%	5 1.8%	

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 6) 部活動の今後のあり方について					
小学校区	合計	1 進積 め極 める 的 に 対 応	活 動 方 で 対 應 す 学 校 進 め る	み 3 で 行 う 今 後 も 学 校 の	4 . わ か ら な い	無 回 答	
全体	1,022 100.0%	191 18.7%	542 53.0%	127 12.4%	143 14.0%	19 1.9%	
石動小	348 99.9%	70 20.1%	183 52.6%	44 12.6%	45 12.9%	6 1.7%	
東部小	110 100.0%	17 15.5%	62 56.4%	13 11.8%	14 12.7%	4 3.6%	
大谷小	241 100.0%	40 16.6%	132 54.8%	29 12.0%	36 14.9%	4 1.7%	
蟹谷小	153 99.9%	23 15.0%	81 52.9%	23 15.0%	24 15.7%	2 1.3%	
津沢小	170 100.0%	41 24.1%	84 49.4%	18 10.6%	24 14.1%	3 1.8%	

*網掛け表示は各項目の最大値

(17) 通学時間・通学距離について

- ・現在、本市では、小学校では通年でスクールバスを運行し、中学校では冬季にスクールバスを運行し、遠距離通学対策と通学の安全確保に努めています。通学時間、通学距離については、どのようにお考えですか。(各項目、1つ回答)

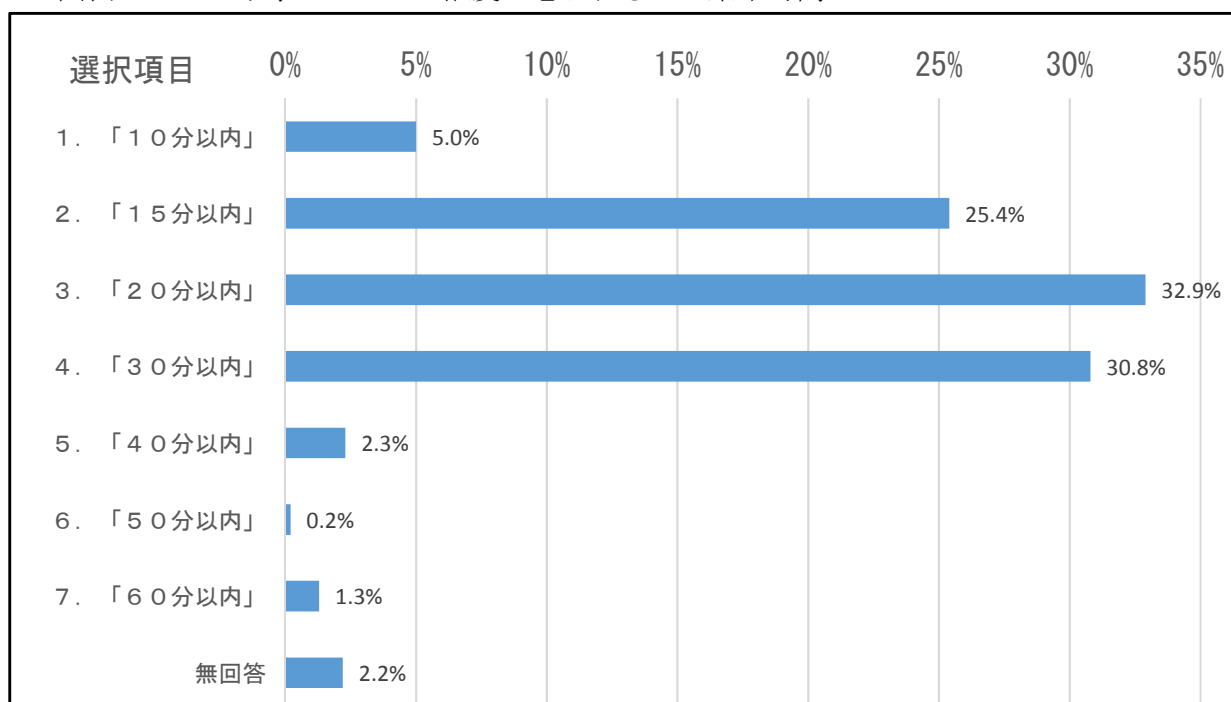
ア 小学生にとって限度と思われるバス乗車時間

- (選択肢) 1. 10分以内 2. 15分以内 3. 20分以内
 4. 30分以内 5. 40分以内 6. 50分以内
 7. 60分以内

[調査結果の概要]

- 小学生にとって限度と思われるバス乗車時間は「20分以内」の割合が 32.9%と最も高く、次の「30分以内」も 30.8% となっている。(図表28)
- 回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「15分以内」の割合が高く、次いで「30分以内」「20分以内」となっている。(図表29)

図表28 小学生にとって限度と思われるバス乗車時間



図表 29

(上段：人)

		問 17) ア 小学生にとって限度と思われるバス乗車時間							
問 4) 回答者の子ども	合計	1 ・ 「 1 0 分 以 内 」	2 ・ 「 1 5 分 以 内 」	3 ・ 「 2 0 分 以 内 」	4 ・ 「 3 0 分 以 内 」	5 ・ 「 4 0 分 以 内 」	6 ・ 「 5 0 分 以 内 」	7 ・ 「 6 0 分 以 内 」	無 回 答
全体N値	1,191 100.1%	59 5.0%	302 25.4%	392 32.9%	367 30.8%	27 2.3%	2 0.2%	16 1.3%	26 2.2%
未就学児	93 100.1%	5 5.4%	34 36.6%	31 33.3%	22 23.7%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
小学生	92 100.0%	6 6.5%	35 38.0%	19 20.7%	30 32.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.1%	1 1.1%
中学生	67 100.1%	6 9.0%	23 34.3%	15 22.4%	20 29.9%	1 1.5%	0 0.0%	2 3.0%	0 0.0%
高校生	63 100.0%	2 3.2%	21 33.3%	16 25.4%	21 33.3%	2 3.2%	0 0.0%	1 1.6%	0 0.0%
大学生等	75 99.9%	3 4.0%	14 18.7%	22 29.3%	31 41.3%	1 1.3%	0 0.0%	3 4.0%	1 1.3%
社会人	513 100.0%	23 4.5%	117 22.8%	192 37.4%	145 28.3%	12 2.3%	1 0.2%	6 1.2%	17 3.3%
無回答	5 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	1 20.0%
子どもなし	283 100.0%	14 4.9%	58 20.5%	95 33.6%	97 34.3%	10 3.5%	0 0.0%	3 1.1%	6 2.1%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 17) ア 小学生にとって限度と思われるバス乗車時間							
小学校区	合計	1 ・ 「 1 0 分 以 内 」	2 ・ 「 1 5 分 以 内 」	3 ・ 「 2 0 分 以 内 」	4 ・ 「 3 0 分 以 内 」	5 ・ 「 4 0 分 以 内 」	6 ・ 「 5 0 分 以 内 」	7 ・ 「 6 0 分 以 内 」	無 回 答
全体	1,022 99.9%	50 4.9%	244 23.9%	352 34.4%	311 30.4%	25 2.4%	2 0.2%	13 1.3%	25 2.4%
石動小	348 99.9%	15 4.3%	77 22.1%	123 35.3%	105 30.2%	10 2.9%	0 0.0%	6 1.7%	12 3.4%
東部小	110 99.9%	5 4.5%	27 24.5%	37 33.6%	28 25.5%	6 5.5%	0 0.0%	3 2.7%	4 3.6%
大谷小	241 99.9%	13 5.4%	63 26.1%	82 34.0%	74 30.7%	2 0.8%	1 0.4%	2 0.8%	4 1.7%
蟹谷小	153 100.0%	6 3.9%	44 28.8%	51 33.3%	45 29.4%	4 2.6%	1 0.7%	0 0.0%	2 1.3%
津沢小	170 100.1%	11 6.5%	33 19.4%	59 34.7%	59 34.7%	3 1.8%	0 0.0%	2 1.2%	3 1.8%

*網掛け表示は各項目の最大値

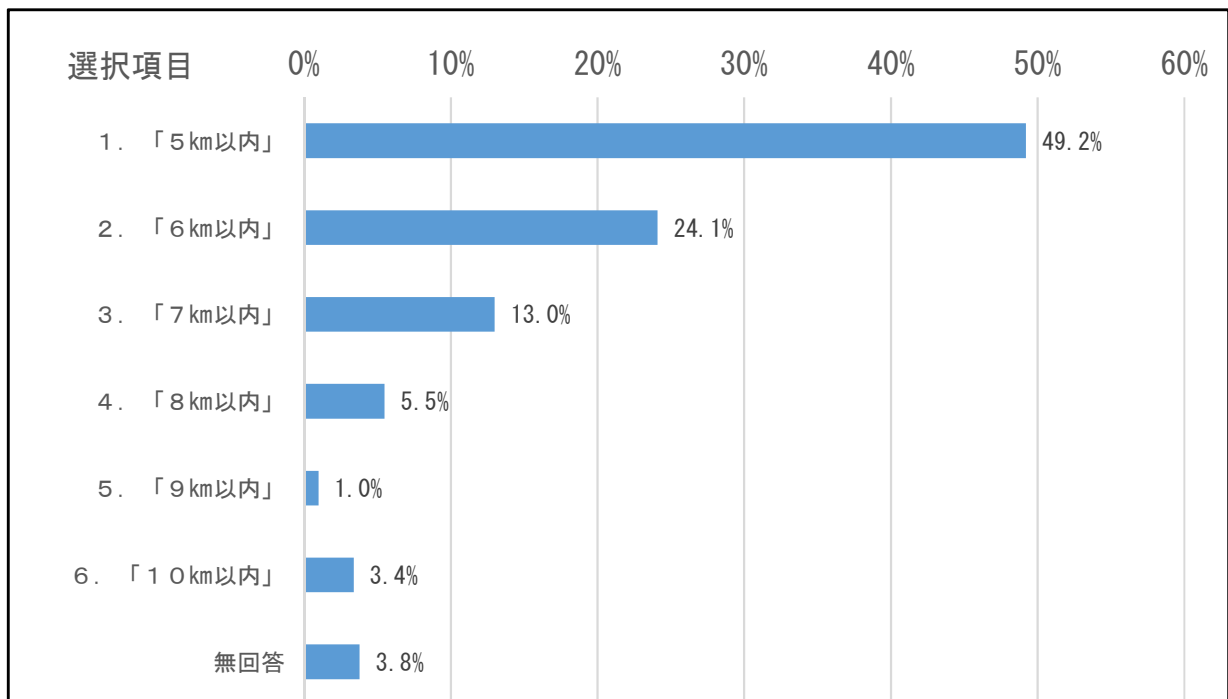
イ 中学生にとって限度と思われる自転車通学距離

- (選択肢) 1. 5 km以内 2. 6 km以内 3. 7 km以内
4. 8 km以内 5. 9 km以内 6. 10 km以内

[調査結果の概要]

○中学生にとって限度と思われる自転車通学距離は「5 km以内」が 49.2% と最も高い。次いで「6 km以内」「7 km以内」の順となっている。(図表30)
○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「5 km以内」がそれぞれ 55.4% と 53.7% であり、回答者全体に比べてやや高く、半数を超えている。次いで「6 km以内」「7 km以内」の順となっている。(図表31)

図表30 中学生にとって限度と思われる自転車通学距離



図表 3 1

(上段：人)

		問 1 7) イ 中学生にとって限度と思われる自転車通学距離							
問 4) 回答者の子ども	合計	1 ・ 「 5 km 以内 」	2 ・ 「 6 km 以内 」	3 ・ 「 7 km 以内 」	4 ・ 「 8 km 以内 」	5 ・ 「 9 km 以内 」	6 ・ 「 1 0 km 以内 」	無 回 答	
全体N値	1,191 100.0%	586 49.2%	287 24.1%	155 13.0%	66 5.5%	12 1.0%	40 3.4%	45 3.8%	
未就学児	93 100.2%	48 51.6%	21 22.6%	12 12.9%	6 6.5%	2 2.2%	2 2.2%	2 2.2%	
小学生	92 99.9%	51 55.4%	16 17.4%	12 13.0%	3 3.3%	4 4.3%	4 4.3%	2 2.2%	
中学生	67 100.1%	36 53.7%	17 25.4%	5 7.5%	3 4.5%	1 1.5%	3 4.5%	2 3.0%	
高校生	63 100.0%	35 55.6%	15 23.8%	4 6.3%	4 6.3%	0 0.0%	3 4.8%	2 3.2%	
大学生等	75 100.1%	41 54.7%	11 14.7%	12 16.0%	4 5.3%	0 0.0%	2 2.7%	5 6.7%	
社会人	513 100.0%	249 48.5%	122 23.8%	73 14.2%	29 5.7%	2 0.4%	13 2.5%	25 4.9%	
無回答	5 100.0%	2 40.0%	1 20.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	
子どもなし	283 100.0%	124 43.8%	84 29.7%	36 12.7%	17 6.0%	3 1.1%	13 4.6%	6 2.1%	

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		問 1 7) イ 中学生にとって限度と思われる自転車通学距離							
小学校区	合計	1 ・ 「 5 km 以内 」	2 ・ 「 6 km 以内 」	3 ・ 「 7 km 以内 」	4 ・ 「 8 km 以内 」	5 ・ 「 9 km 以内 」	6 ・ 「 1 0 km 以内 」	無 回 答	
全体	1,022 100.0%	496 48.5%	252 24.7%	133 13.0%	57 5.6%	10 1.0%	35 3.4%	39 3.8%	
石動小	348 99.8%	141 40.5%	99 28.4%	57 16.4%	20 5.7%	4 1.1%	12 3.4%	15 4.3%	
東部小	110 100.1%	55 50.0%	14 12.7%	17 15.5%	9 8.2%	0 0.0%	8 7.3%	7 6.4%	
大谷小	241 100.0%	125 51.9%	61 25.3%	25 10.4%	16 6.6%	1 0.4%	6 2.5%	7 2.9%	
蟹谷小	153 100.1%	87 56.9%	33 21.6%	15 9.8%	8 5.2%	2 1.3%	5 3.3%	3 2.0%	
津沢小	170 100.2%	88 51.8%	45 26.5%	19 11.2%	4 2.4%	3 1.8%	4 2.4%	7 4.1%	

*網掛け表示は各項目の最大値

3 自由意見の概要

(1) 小中学校の教育のあり方及び適正規模・適正配置について

※小矢部市のこれからの教育のあり方、小中学校の適正規模・適正配置をはじめ、広く学校教育に関するご意見を自由にご記入ください。

- ・ 自由意見は、後述、資料編のとおり

※ 小中一貫教育について

※近年、新しい学校教育の姿として「小中一貫教育」を推進する市町村が増えつつあります。本市における「小中一貫教育」についてのご意見をお聞かせください。

(「小中一貫教育の各形態・内容・状況等」については資料編P7を参照ください)

- (選択肢)
- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 推進することが望ましい | 2. 推進することは望ましくない |
| 3. わからない | 4. その他 |

- ・ その他及び自由意見は、後述、資料編のとおり

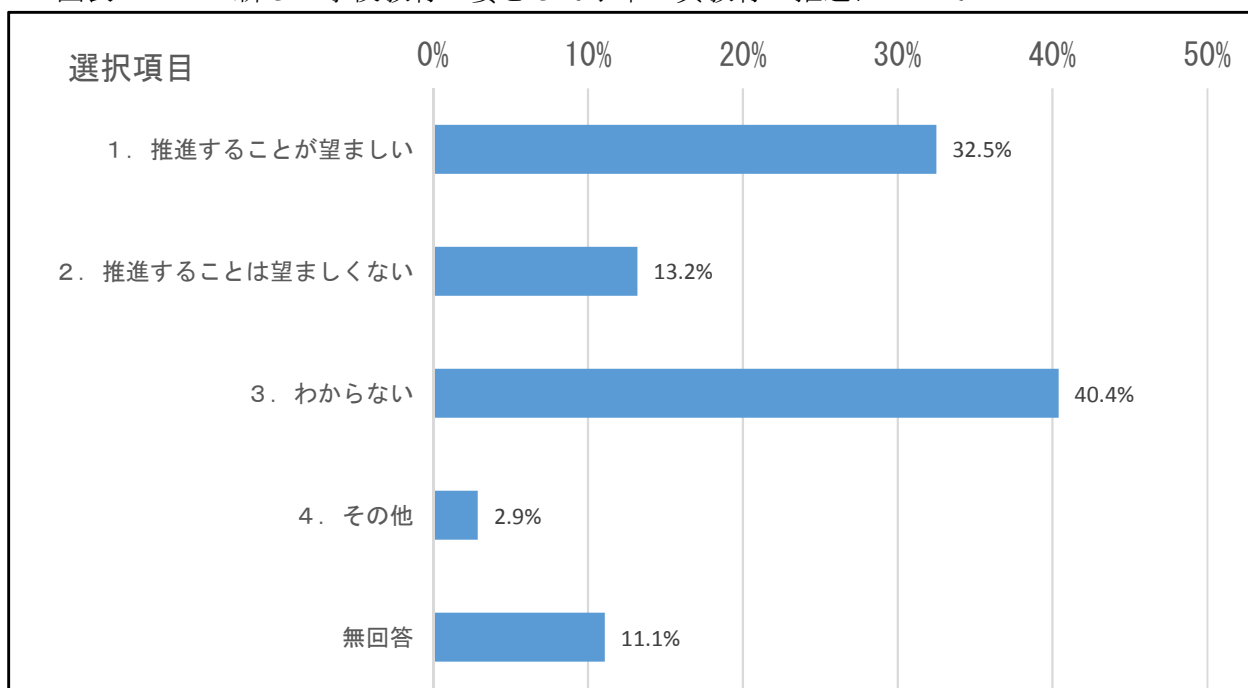
[調査結果の概要]

○小中一貫教育の推進については、「わからない」の割合が 40.4% と最も高く、次いで「望ましい」が 32.5% となっている。「望ましくない」は 13.2% となっている。(図表32)

○回答者を小学生と中学生の保護者について見ると、「わからない」がそれぞれ 46.7% と 46.3% となっている。

小学生保護者では「望ましい」とする意見が「望ましくない」とする意見を約7ポイント上回っており、中学生保護者では約25ポイント上回っている。(図表33)

図表32 新しい学校教育の姿として小中一貫教育の推進について



図表 3 3

(上段：人)

		※) 新しい学校教育の姿として小中一貫教育の推進について				
問4) 回答者の子ども	合計	望1 ま、 し推 進 する こと が	望2 ま、 し推 進 する こと は	3 ・ わ か ら な い	4 ・ そ の 他	無 回 答
全体N値	1,191 100.1%	387 32.5%	157 13.2%	481 40.4%	34 2.9%	132 11.1%
未就学児	93 100.0%	31 33.3%	11 11.8%	42 45.2%	3 3.2%	6 6.5%
小学生	92 100.0%	21 22.8%	15 16.3%	43 46.7%	2 2.2%	11 12.0%
中学生	67 100.1%	23 34.3%	6 9.0%	31 46.3%	3 4.5%	4 6.0%
高校生	63 99.9%	21 33.3%	9 14.3%	21 33.3%	4 6.3%	8 12.7%
大学生等	75 100.0%	27 36.0%	6 8.0%	29 38.7%	4 5.3%	9 12.0%
社会人	513 100.0%	182 35.5%	65 12.7%	190 37.0%	14 2.7%	62 12.1%
無回答	5 100.0%	1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 40.0%
子どもなし	283 100.0%	81 28.6%	45 15.9%	123 43.5%	4 1.4%	30 10.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

●小学校区別

(上段：人)

		※) 新しい学校教育の姿として小中一貫教育の推進について				
小学校区	合計	と1 が、 望推 進し する こ	いと2 は、 望推 進し する こ	3 ・ わ か ら な い	4 ・ そ の 他	無 回 答
全体	1,022 100.0%	332 32.5%	138 13.5%	409 40.0%	28 2.7%	115 11.3%
石動小	348 100.0%	110 31.6%	48 13.8%	138 39.7%	8 2.3%	44 12.6%
東部小	110 99.9%	31 28.2%	16 14.5%	44 40.0%	5 4.5%	14 12.7%
大谷小	241 100.0%	71 29.5%	26 10.8%	107 44.4%	8 3.3%	29 12.0%
蟹谷小	153 99.9%	54 35.3%	27 17.6%	53 34.6%	4 2.6%	15 9.8%
津沢小	170 100.0%	66 38.8%	21 12.4%	67 39.4%	3 1.8%	13 7.6%

*網掛け表示は各項目の最大値

4 資 料 編

(抜 粋)

- ・ 自由意見は650件ありました。
- ・ 類似意見も多くあったことから、できるだけ異なる意見を抜粋したものです。

(1) 小中学校の教育のあり方及び適正規模・適正配置に関するの自由意見

【統廃合に関する意見】

1	我が子の経験ですが、小中学校では少人数ですごし仲良くして良かったが、高校では多人数での生活に慣れない子がいて、その子が退学、引きこもりになったと聞いたので考えさせられた。原因は環境に対応できなかったようでした。
2	学校規模としては各学年複数の学級があったほうが良いと思うが、一方で学校が遠くなった場合、中学校であってもスクールバス等の通学について冬期以外も心配になるのではないかと思う。その場合、部活動時間の調整も必要だと思う。
3	中学校の部活動については、生徒数減少のため、存続困難なものが増えていくと考えられます。合同活動や市内の中学校の自由選択のシステムも今後考えていく必要があるのではないかと考えます。統合すべき学校もあると思います。
4	学校統合は児童数減少により仕方がない。小中一貫教育を前向きに進めるべきと思う。
5	市として、一元化校区とし、様々な多様性を持った児童生徒の交流をはかる。個の特質を極めるのではなく、5～6学級の中で自身の方向性を見出す教育も必要である。
6	学校を集中させることでより教育資金を集中して、高度な教育（英語やPC等）を受けさせて、それを魅力としてPRし、他の市から子育て世代を移住させることにつながれば良いと思う。
7	地域性を考え、大規模、小規模学校になっても統合が必要と思います。
8	地域のために学校があるわけではないと考える。子どものために一番望ましい方法を考えるべきである。子ども同士の関わり合い学び合いが一番大切である。
9	部活動の多様化や運動会等においても児童数の減少は問題がある。学校の運営効率の観点でも小矢部市の小中学校の合併を進めることに賛成です。少人数クラスや教員の増員も取り入れてください。
10	1学年あたり3学級程度で100人前後は必要だと考える。少数だとメンバーが固定化し、刺激が少なく閉鎖的である。多様性を認めたり、協調性が育ったりしにくい環境は社会に出るときに不都合だと感じる。
11	人数が少なくなる中で統廃合は必要と思われる。通学時間や通学距離が多くなることは仕方がない。
12	進学に伴い新しい人間関係を広げられる仕組みがあると良い。小学校ではスクールバスもあるので校区が広がっても対応できると思われる。中学校では熊や変質者の心配があるので通学時間帯に路線バスを利用しやすい仕組みがあると良い。
13	コミュニケーション能力が重要視されている現代において、ある程度の規模（1学年100人前後）の学校にした方が生徒がいろいろな人とふれ合うことができるので良いと考える。多様な価値観を養うことが大切と考える。
14	市内にある小中学校の統合をしてほしいです。限りある財政を分散するより集中することでより高度な環境での教育ができると思います。より多くの人間の中でもまれ、子どもより成長すると思います。
15	統廃合をする場合、地区が割れることのないように。
16	小規模小学校で子ども達3人は学習しました。クラス替えもない小学校生活ははじめや縦割り活動がなく、保育所からの幼なじみ感がある学級も悪くなかった。細やかな学習指導にも感謝しています。小中一貫に対してはメリットも多く、是非推進したい。小学校5・6年における高学年としての責任イベントでの計画・行動達成感はとても大切だと思う。
17	生徒数が減り、一人ひとりに手厚い教育が受けられるということをメリットとして捉えたい。先生の負担がとて大きくするため、保護者の地域の協力も今以上に必要になると思う。
18	少人数も丁寧で良い。競い合うことを苦手とする。
19	少人数であっても工夫次第で社会性を養うことは可能。
20	現状の規模配置を可能な限り維持したいが、実情からみて近い将来「小中一貫教育」を導入、推進する必要があると思われる。
21	小学校への通学が問題。近くで歩いて通学できるのがベスト。
22	地域のよりどころである学校を残すためにも、現小中学校を存続すべきである。
23	生徒数が減少していく中で、小学校の合併や中学校の合併は通学の問題から避けたい（体力強化の面から自力で通学できる方が望ましいと考えるため）。

24	1. 安易な事柄で統廃合はしない。特に経済的な理由ではだめ。 2. 十分な時間を費やし、地域の重要な文教施設である学校の在り方を検討する。
25	小学校は小規模できめ細やかな指導、中学校は中規模で社会性を身に付けられる環境がベスト。
26	無理して統合することはないと思うが、子ども達のことを考えるとクラス替えができたほうが良いかもしれない。
27	できるならば、現状の校区のまま小中学校があれば良いと思います。といっても、1クラスずつになったらやはり統合もしなければいけないと思います。
28	地区区分変更確定後に考える。
29	今になって学校の在り方を問うのは対応が遅い。子ども達の減少化は今に始まったものではなく、5～10年先を見て考えるべきで、そのことは市だけではなくPTAも必要だと思う。
30	現時の最大の問題であることから、統廃合審議会で十分に慎重審議されようをお願いしたい。

【教育全般に関する意見】

1	知識や教育も必要ですが、家庭はもちろん、学校でも、一番大切な社会に出た時、必要とされるのは思いやる心の教育です。
2	もっと多角的に児童・生徒の気持ちを考えた指導を徹底していただきたい。
3	専門的な知識の向上。スポーツばかりでなく芸術的な事。
4	社会が多様化、国際化が進んでいるので、今の社会に合わせた教育。
5	子どもの個性を尊び仲良く勉強が楽しくなるように助言してほしい。そして自己責任をはっきり行動するようにしてほしい。
6	個人の適正を伸ばす教育を希望します。
7	人間関係を重要にした教育を行う。
8	生徒数が少ないと責任を持った行動ができるようにはなるが、団体行動ができない。多いと「さぼる」「まぎれる」といった子も出てくる。
9	市内でも行く学校を生徒自身が選択できるシステムがあれば良いと思います。
10	小規模校同士で年に数回、同学年の合同授業により少しはデメリットの解消をはかることが出来るのではと思う。
11	集団行動の充実をはかってほしい。
12	一人ひとりの教育が行き届けば最高ですが、差があります。分からない生徒を取り残さないよう努力してほしいです。
13	子どもファーストになり過ぎない教育を望みます。怒ってくれる教師もいてほしい。丁寧な指導を甘やかす指導は違うと思う。もちろん家庭でも。
14	小中学校の児童数が毎年減少とのことで、少人数では先生方の個々の教育には良いと思いますが、学校は人員の多いほどよい結果が出ると思いますので、最悪の場合は合同でどうか。
15	お互い競争心を育み個人個人の得意分野を生かした学校生活をできるように願う。
16	人口減少の中で学校の統廃合は市の運営上必要となってくると思うが、子ども達の地域性は薄れ中学校での新たな人間関係づくりの試練がなくなると、その後の人生に何らかのマイナスが出てくると考える。壁にぶつからせることも必要。ずっと人間が同じ数だとマンネリ化する。
17	家庭でのしつけや教育を見つめなおして、地域や学校との関わりを大切にしていけることが大切だと考える。
18	6～9年間人間関係に変化の少ない環境は良くない。もっと自由な考えを持ち企画し、実行した方が良いと思います（大人の頭が固いので変化しづらい）。
19	教育の基礎、生活の基礎は家庭にあると思う。学校（教師）は負担が大きく、そこへ依存する家庭も多いがやはり基本は家庭ではないか。学校や地域がサポートする環境が子ども達を健やかに育て上げると思う。
20	学校は数は多い方が良いと思う。少人数でクラスが多い。大きなイベントをやりがいを持ってやれそう。放課後に学校の一部を開放し、外部教育が入り習い事のできると助かる。仕事のため何か習い事と言っても送迎できない。以前、私立幼稚園の教室で放課後外部の業者が入り、月謝で習い事ができてとても良かった。

【学級数・学級児童生徒数に関する意見】

1	近所に同級生がおらずクラスも1つしかない。とても狭い交流関係の中で子ども達が生活している状況。通学距離の問題はあるが、いろいろな性格の人とふれあう事ができ、ぶつかりながらも関係を修復できる柔軟な頭を持っているのは小学生だと思う。健全な人間関係を学ぶためにも学級の数は多くしてほしい。
2	1学年で2クラス以上、毎年クラス替えがある方が雰囲気が変わって良いと思う。同じ状況がずっと続くことにデメリットがある場合もあると思う。
3	児童生徒数の推移から学校によっての人数の偏りがありすぎるのでは。小中一貫も良いがそれでも限界があるのでは。人間関係が固定されないようにせめて2クラス以上ありクラス替えなどで多くの友達・先生と学んでほしい。
4	理解していない子を取り残されている。理解度によりグループ分けをし、取り残される子どもがいない教育を求めたい。一つの教室に5グループぐらいで、きちんと1グループに教員がつくなど、海外では多い。
5	少人数でも助け合える心を育てる教育があれば良いと思います。
6	小学校ではスタディメイト、支援講師も良いが、1学級あたりの児童数を20～25人くらいにするのが望ましい。教員の多忙も解消できるし、子どもも落ち着くと思う。教員の目が行き届きやすく、きめ細やかな対応が期待できる。
7	過剰に競争させることなく、自然の中で欧米のように1学級あたり少ない人数で伸び伸びと学習することによって、良い人間関係、信頼関係を作り、基礎学力を身につけ、学ぶ楽しさ、学習意欲が高まるのではないかと思う。また、自己肯定感も高まり個性を伸ばすことにつながるのではないか。
8	子どもの人数が減り、学校の統合、再編は理解できるが、1クラスあたりの人数が30人以上となると一人ひとりに十分な教育とは難しいのではないか。

【部活動、通学、いじめに関する意見】

1	児童生徒が少なくなる中、集団としての部活動が出来にくくなると考えられる。種目によっては、市全体で強化をはかることも必要ではないか。
2	中学校の人数の割に部活の種類が多い。
3	中学の部活動を他校と合同で行えるようにしてほしい。所属校以外への部活動の参加を認めてほしい。市内を一つの部と考え、部活動の種類を増やしてほしい。
4	少数の中学校は部活動などの選択肢が少なく残念である。校区を自由化し特色のある学校。
5	通学にあたり、安全が確保される様、自転車専用の車道の設置をお願いします。
6	自転車通学が許可される通学距離の引き下げを行ってどうか。私が石動中にいた頃は2kmの子が自転車通学できて、1.8kmの子が自転車に乗って通学できずに可哀想だった。
7	大型スクールバスでの通学より小型スクールバスで運行を行ってほしい（バス停まで遠い）。
8	学校までの距離が2.7kmです。3kmないため歩きとなり、登下校に1時間ほどかかる。途中何かあるのではと心配です。せめて2km以下にしてほしい。
9	先日からの事件のこともあるので、登下校に対する安全確保、歩道、外灯の見直し整備をしっかりと行ってほしい。
10	長時間の通学は子どもには負担です。
11	通学は全員市バスを使用しスクールバスを廃止し、市バスも本数を増やし、子ども達は全員バスを使って通学できるようにしてほしい。冬期中学生でバスに乗れる子と親が送らなければならない子が出るのは不平等に感じる。市バスが増えれば老人も交通手段に困らない。
12	児童数の減少により集団下校も少ない人数で下校をしています。ニュース等で事件・事故痛ましい内容が報道されていますが、何か対策は考えておられるのでしょうか？他県では迅速に対応されていましたが、小矢部市教育委員会としては何か対応をされましたか？何かあってからでは遅いと思います。
13	いじめなどがない教育にしてもらいたい。
14	いじめを未然に防ぐ。
15	不登校・いじめ未然防止、家庭・教職員との話し合い。

【子どもの成長に関する意見】

1	教育も大事ですが、放課後支援もお願いします。
2	核家族の時代になり、子ども達の礼儀作法などが心配です。また共働きの家庭も多く、食事面においても心配です。教育も大事ですが、世の中に出る時にとっても心配になります。
3	家族愛、地域愛を持つことができる人に成長して欲しい。
4	学校教育も少子高齢化というところで適正規模、配置の必要性がでてくると思われるが、それよりも昨今の子どもに関する事件、事故に注目すると子どもの親、保護者に問題があるのではないかと。親になる大人の学びの場を提供してほしい。
5	今、発達障害、知的障害の子が増えています。その子達にかかるお金をもっと増やしてほしいです。すぐ物を壊す等あり、他の子よりお金がかかるため。
6	子どもの教育、人格の形成には家庭環境がとても重要です。難しい事ではなく、子どもを思い、いつくしみ、寄りそうなど。不十分なところは学校に補ってほしい。
7	学校、家庭、地域（社会）が一体となり子ども達を育てる。
8	同じ器の中で育つ事も大切かもしれませんが、成長に応じて、より大きな器に変える事も大切だと思います。少しずつ行動範囲を広げる事、交友関係を広げる事、成長するにつれてより広い社会に順応するためには必要な事だと考えます。
9	子ども達が自立できる環境を私達大人は作ってやらなければならないと思います。少子化の時代、あまり過保護になりすぎないよう家庭はもちろん学校も地域もあまやかすぎないように見守ってやる事が大切だと思います。
10	思春期という難しい時期に新しい出会いにより関係を深めたり、トラブルがあるなど様々な心の経験をすることがその後の人生において大切だと思う。

【教職員に関する意見】

1	教員をもっと増やす、または学習援助をするボランティア支援員を増やす。教員の労働が重すぎると思われる。
2	教員の負担が大きいのであれば、市独自の非常勤講師等を検討。
3	児童・生徒・保護者との信頼関係が今後も大切になってくると思います。教職員の質の向上期待します。
4	児童生徒数は減少していても、個別の配慮が必要な子どもがとて増えているので、そういう子どもに対応できる教員を確保してほしい。
5	教員の負担を減らして児童・生徒と向き合える時間を増やせるように願います。

【地域との連携に関する意見】

1	学生・生徒、個人としての地域参加は認め、学校単独で参加の必要はない。
2	地域での子ども達への見守り等も、重要であると理解していますが、それが内容によって、大変生活に負担となる事もあるのです。
3	地域と学校が交流することによって、先生への協力も進むと思います。
4	いじめや子どもが亡くなる事故や事件も増えているので教師だけでなく地域とつながりを持って見守っていくことが大切だと思う。
5	子どもの人数が減る一方で先生方の負担が大きいと思います。地域で出来ることがあれば移行、委託することもあっても良いと思います。

【その他の意見】

1	学校周辺の環境整備（公園、スポーツ施設等、通学路に歩道設備等）。
2	給食センターではなく学校毎に食事を作ってほしい。食育も力を入れてほしい。
3	子どもの安全、危機管理など十分に行ってほしい。
4	生徒数の増加、魅力ある小矢部市をどうするか、特色ある教育方針など多方面な検討が必要である。
5	ベッドタウン、道路、交通整備、人が移り住みたいと思えるような魅力的な取組を進めてほしい。

※ 小中一貫教育に関する自由意見

【推進するという方の意見】

1	形の上では校舎一体型が最良であると思います。次はせめて近接型である。授業内容においても教員の出張授業・交換授業も試みられ、望ましい雰囲気を経験したことがある。
2	教員への負担が多くなっている中で学内での様々な行事や部活の現場で小学生の子ども達の面倒を中学生に見てもらおうようにする。そうやって小さい子どもの世話をしていく中で中学生にも責任感が生まれ精神的な成長が期待できる。学校を中心に地域コミュニティが自然と広がって行く。子ども達には何でも任せて自分で学ばせることが大切だと思う。
3	小中一貫教育には賛成ですが、新校舎の建築には反対です。現在する校舎を活用する形で進めて頂けると良いと思います。
4	人口が減ることにより、小学校の統合が目立ちますが、広範囲の生徒が通にくいことも考えられます。それよりも小中一貫教育で学校をボリューム化し、財源も限られていますので、より良い形態を望みます。
5	小1から中3まで児童生徒の成長に対応して一貫した教育がなされることが望ましいと思う。小6から中1へ進む段階で、教師の児童生徒理解が途切れたり、児童生徒が教科担任制等の教育の形態の変化に戸惑わないためにも。
6	小学校も中学校もなしよりは、合わせて一つを残す方が良い。
7	望ましいとは思いますが、時間をかけてゆっくり取り組むべきものと思う。他市が進めているからといって慌てることはないと思う。校舎近接型、一体型が良いが、経費がかかると思う。まずは乗り入れ授業から（高学年の外国語、音楽、体育など）始めてはどうか。
8	施設の維持管理の観点からすれば良いとは思いますが、今でも石動以外人間関係が小中同じで固定化している。いじめの問題が心配。ただ、私立の学校では珍しくないことなので、教育（学力）的には良いと思う。
9	出来れば、現在の4中学校をそれぞれ小中一貫校となれば一番良いのではと思います。その上で4校の交流行事や授業など工夫できることはあるかと思います。
10	小中一貫教育の校舎の配置は校舎一体型ではなく、小学生と中学生を分けた方がその時期にふさわしい環境で生活できると思う。

【推進しないという方の意見】

1	現状の状況でも教員が少ないと感じているのに、小中一貫にするともっと減るのでは？
2	一貫教育が果たして新しい教育の姿なのか、よく市民全体で検討し、より良い小矢部独自の教育・文化の発展に役所も市民もともに携え、すばらしい小矢部を作ってほしい。
3	小中一貫教育にしても地区に学校があってほしい。
4	一見6年間をかけて大学受験に準備できるので良いものと思われそうですが、勉強についていけない子と、できる子との差が格段に大きくなります。1つの学校で、学力の差の大きな子どもたちを受け入れるのは、教員への大きな負担となりますし、現実的ではない。「増えつつあるから」という理由で取り入れるのは危険で無意味だと思います。
5	小学1年から中学3年では年齢差が大きすぎる。小学生と中学生とでは教育面も養護面も全く違うと思う。
6	小中一貫は良くないと思う。心身ともに成長する時期に人間関係が固定されるため分けた方が良い(中高一貫は良い面があると思う)。
7	小学校においては、複式学級を作らないことが絶対条件。
8	教員の負担増が懸念される。新たな校舎を建設する際に多額の費用を要することとなる。
9	若い児童の役割が減り、責任をもった活動の期待が望めず不安が残る。
10	一貫となることのメリットもあるが、子ども達にとって「変化」も成長の過程で必要。変化の著しい時代だからこそ少しでも対応できる人になってほしい。

【分からないという方の意見】

1	現時点においても一貫教育とあまり変わらないと思いますが、部活動等が問題となります。
2	統廃合の結果、市の小中学校が1～2校となれば必然的になると思いますが、どのようなメリットがあるのか理解していません。
3	どんな成果、メリットを求めているのかよく分からないが、単に効率化を目指すのであれば間違い。子ども達の成長に相応しい形が望ましい。特に変える必要性がない。
4	市の現状を鑑みると、一貫教育を視野に入れる必要はあるかもしれないが、校舎等を新設する際の経費や教職員の負担が大きくなるのが心配である。
5	年齢が高い生徒にとっては責任感が出たりと良いこともあると思うが、人間関係でつまづくと大変そうである。
6	校舎の新築、学校統廃合を前提としたもので議論すべきではない。
7	私立のように同じ学力であれば一貫校でも良いと思うが、学力差が広がる恐れもあると思う。
8	既存校舎にて校舎一体型はできないか？
9	人数が少ない今、小中一貫教育は仕方ないとも考えます。でもずっと9年間同じ学校で過ごすのは何か不安な事も心配です。
10	どのようなメリット・デメリットがあるのか分からない。不登校等の問題やいじめなどが起きたときに、対応が複雑になるのではないかと考える。

【その他の意見】

1	英語教育をはじめとして、効果的な点が多いのではないかと。
2	小中一貫教育を進めるには校舎近接型で小、中がそれぞれ独立し、必要に応じて自由に小中学校が一貫した指導で話し合えるようにすれば良い。
3	時代の流れで今までとは違う形になるのは、受け入れるべきと感じますが、子ども達のためになるのなら、地域もどんどん関わっていくべきだと思います。良い面、悪い面はあると思いますが、その都度の対応に力を入れてもらいたい。
4	小矢部市の場合は、現状でも小中一貫型の形態だと思われます。このまま小中一貫教育に進めればと思います。ただ、小学校で学校が嫌になってしまった子どもにとっては、立て直す機会が少なくなり困ります。
5	それぞれにメリット、デメリットがある以上、費用対効果も含めて検討する必要がある。何事も推進前提で話し合うのは良くないと思う。
6	中学校へ進学するという事は、様々な新しい環境の変化を体験することになります。小学校からの友達のいることから、相談したりしながら、対応するための経験を積むことができます。高校へ進学する時のことを考えたとき、同じ学校の生徒も少ないですし、地方独特の考え方やものとのとらえ方の違う人とも交流していくことになります。小中一貫校の場合、中学校での環境変化の対応の経験をする事なく、高校進学ということになり、一気に大きな変化を受け入れる点で、負担になるのではないかと考えます。
7	中学校1年生の時期に「いじめ」の件数が大きく跳ね上がるのも事実。それを防ぐといった点からは、小中一貫校にした方が良いのではないかと考えます。
8	小中一貫については、児童数の減少により空き教室が増えている状況のため校舎の維持費の削減、兄弟のいる家庭は1ヶ所でまとまっているため保護者の負担が軽くなる、異年齢の人とのふれあい等メリットは大いにあると思います。
9	中高一貫校であれば生徒学生の進路の時間的余裕発生するメリットがあると思うが、公的義務教育機関間の小中一貫校に教育的メリットは無いように思われる。財政的には導入しても良いと思われる。
10	肯定も否定もない。判断基準は子ども達を教え育むことを中心に捉える。それを基に現状と想定している小中一貫教育の長所短所を洗い出し照らし合わせ判断する。結果を公式の場で住民に胸を張って、判断基準となった資料を提示し、結果を提示できること。